

未定稿

湿原を題材とした教育の実施状況に関する調査結果（案）

2007年 月

釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会
環境教育ワーキンググループ

目 次

1 背 景	1
2 目 的	1
3 調査方法	2
3 - 1 調査項目	
3 - 2 対 象	
3 - 3 調査期間	
4 湿原を題材とした教育の実施状況に関する調査 集計結果	3
5 まとめ・考察	46
6 資 料 編	
釧路湿原自然再生協議会環境教育ワーキンググループ構成員	50
調査用紙	51
湿原を題材とした教育の実施状況に関する調査結果（自由記入の設問）	57

1 背景

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会（以下、「再生普及小委員会」）には、再生普及行動計画ワーキンググループ（以下、「行動計画WG」）と環境教育ワーキンググループ（以下、「環境教育WG」）の2つのワーキンググループがあります。

行動計画WGは、釧路湿原の保全、再生に向けて、広く社会の関心を喚起していくことや、そのための場づくりに関する情報の共有と発信、参加の呼びかけ等を中心に活動しています。ここでの取り組みは、主として広く市民を対象とする啓発活動が中心であり、そうした活動に主体的に取り組むメンバーが自発的に集まって活動しています。再生普及小委員会及び行動計画WGでの議論、この行動計画に至るまでの過程をとおして、湿原を活用した学校での環境教育等について、繰り返し拡充への期待の声がよせられてきました。しかし、釧路湿原地域での学校における環境教育の現状や必要性、可能性等については、必ずしも十分に状況が把握され、情報が共有されているわけではありません。そこで、再生普及小委員会の下に2007年8月環境教育WGが設立され、以下の3つを主な目的として活動を開始しました。

- 1) 釧路湿原周辺の学校等における環境教育に係る情報の収集
- 2) それらに関する、関係者間の情報共有
- 3) 学校等における環境教育の推進方策の検討

環境教育WGは、再生普及小委員会構成員（希望者）教育行政関係機関、関係行政機関で構成され（資料編50p参照）今後、具体的な推進方策を検討していくにあたっては、必要に応じて学校教員等の参画を要請することとしています。事務局は、環境省釧路自然環境事務所が務め、活動状況は、随時、再生普及小委員会に報告することとしています。

環境教育の対象や場は広汎で多岐にわたりますが、学校教育との連携への関心が高いこと、及び、社会教育に関しては、行動計画WGである程度の状況把握や情報共有が進みつつあること等から、当面、学校における湿原保全・再生をテーマとする環境教育の推進を優先的に検討し、その成果を踏まえて社会教育等への展開についても検討していくこととしています。前述のとおり、学校教育における湿原の活用状況や環境教育の実施状況については、現状や課題等の基礎的情報の把握を必要としており、まず釧路湿原周辺の学校に対して、これらに関するアンケート調査を実施することとしました。

2 目的

湿原を題材とした環境教育の推進に向けて、学校における環境教育の実施状況や意向等に関する情報を収集し、今後の推進方策を検討するための資料とすることを目的として実施しました。

3 調査方法

調査票（資料編 51p 参照）の配布による調査を実施しました。実施にあたっては、各市町村教育委員会及び北海道教育庁釧路教育局の協力をいただきました。

（１） 調査項目

環境教育の実施状況、湿原を題材とした教育活動の実施状況、環境教育 WG の活動への関心等について設問を設けました。環境教育の実施校に関しては、実施状況や課題等、実施していない学校については、今後の実施意向、必要条件、支援要望等の把握を試みました。

（２） 対 象

釧路湿原流域市町村（釧路町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、釧路市）の以下の学校を対象として実施しました。

小学校	56校	（市町村立 55校、国立 1校）
中学校	33校	（市町村立 31校、国立 1校、私立 1校）
高等学校	13校	（道立 10校、市町村立 2校、私立 1校）
高専・大学等	7校	（大学 3校、高専 1校、公立専修 1校、特別支援学校 2校）

（３） 調査期間

配布開始 : 8月31日（金）
回答期限 : 9月25日（火）

4 湿原を題材とした教育の実施状況に関する調査 調査結果

(1) 回収状況

調査票の回答があった校数は以下のとおりでした。

小学校 : 45校(回収率80%)

中学校 : 26校(回収率79%)

高等学校 : 6校(回収率46%)

大学・高専等 : 3校(回収率38%)

大学・高専等(道立特別支援学校、高等専門学校、公立専修学校、大学)

表1. 調査票回収件数

	釧路市	釧路町	鶴居村	弟子屈町	標茶町	道立	国立	公立・ 組合立
小学校	23	6	3	6	6		1	
中学校	13	4	2	2	5			
高校	1					5		
大学・ 高専等								3

(2) 調査結果

2. 環境教育の実施状況について

2-1 貴校では環境教育を実施していますか。1つ選んで をつけてください。		
回答	選択肢	
	実施している	問2-2へ
	実施の意向があるが、現在のところ実施していない	問2-6へ
	実施の意向はない	

環境教育を実施していると回答した学校は半数以上で、特に小学校と中学校においては、8割近くの学校が実施しているとしており、多くの学校が環境教育に取り組んでいることがわかります。また、実施していないと回答した学校においても、後述の2-6によれば、総合的な学習の時間等で時間を設定していないものの、各教科にて関連性を持たせて実施していると回答した学校も多く、ほとんどの学校で何らかの取組を行っていることがわかります。

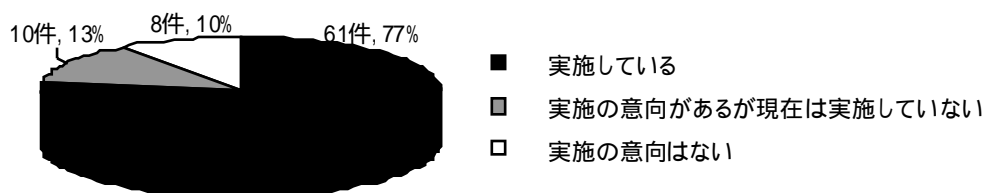


図1. 環境教育の実施状況 (回答校全体 n=79)

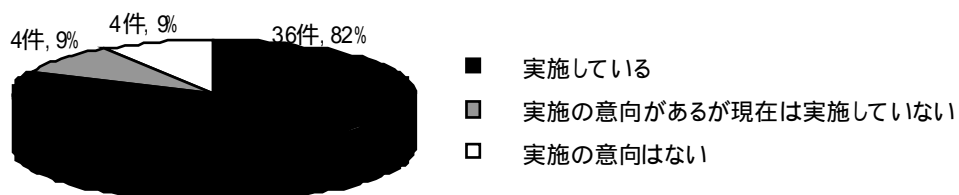


図2. 環境教育の実施状況 (小学校 n=44)

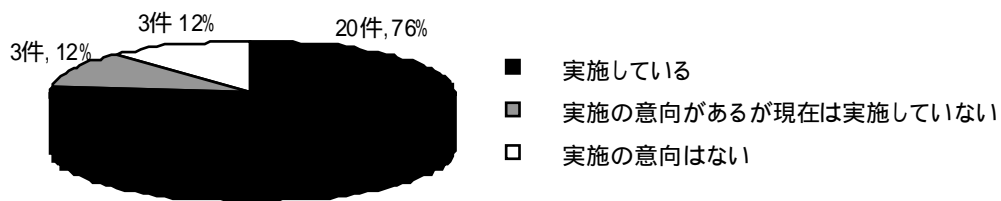


図3 . 環境教育の実施状況 (中学校 n=26)

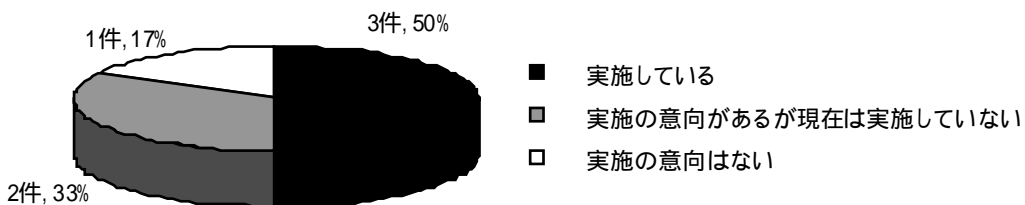


図4 . 環境教育の実施状況 (高等学校 n=6)

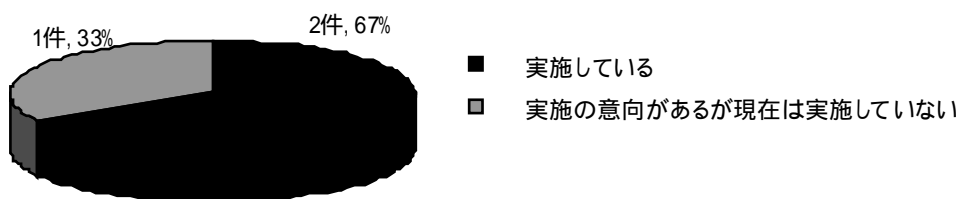


図5 . 環境教育の実施状況 (大学・高専等 n=3)

2 - 2の設問以降、道立高校については、「大学・高専等」のカテゴリー内に合わせて「高校・大学等」のカテゴリーとして行っています。

2 - 2 どのようなテーマで実施されていますか。当てはまるものを全て選んで をつけてください。	
回答	選択肢
	湿原を題材とする環境教育を実施
	湿原以外を題材とする環境教育を実施

問2 - 3へ

2 - 2 より 2 - 5 までの質問では、「環境教育を実施している」と回答した 61 校に対して回答を求めました。環境教育の選択課題としては、全体の傾向として、湿原以外を題材とする学校の割合が 8 割を超えているものの、約 3 割の学校では「湿原を題材とする環境教育を実施している」と回答しており、湿原を題材として扱う学校も多くあることがわかります。

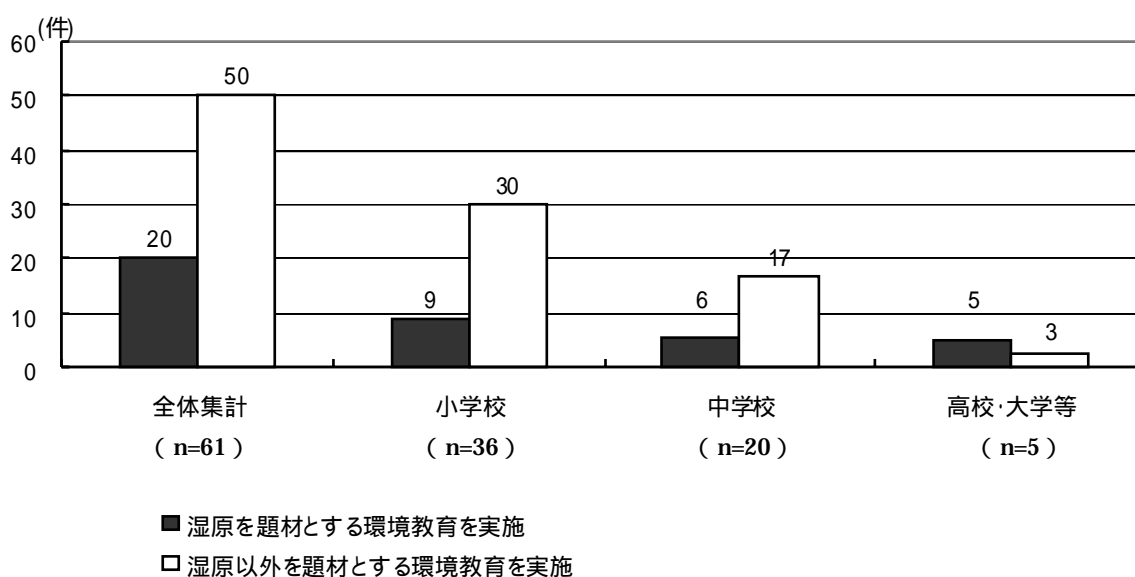


図 6 . 環境教育の実施テーマ

2 - 3 どのような時間に実施していますか。当てはまるものを全て選んで をつけてください。	
回答	選択肢
	総合的な学習の時間に実施している
	教科の中で実施している
	課外活動で実施している
	そのほか()

問2 - 4へ

小学校及び中学校においては主に総合的な学習の時間を使って環境教育を実施していますが、高校や大学等では、教科内において環境教育を実施している学校が多くなっています。また、全体の傾向として、多くの学校が教科内で関連性を持たせながら環境教育を実施していることがわかります。

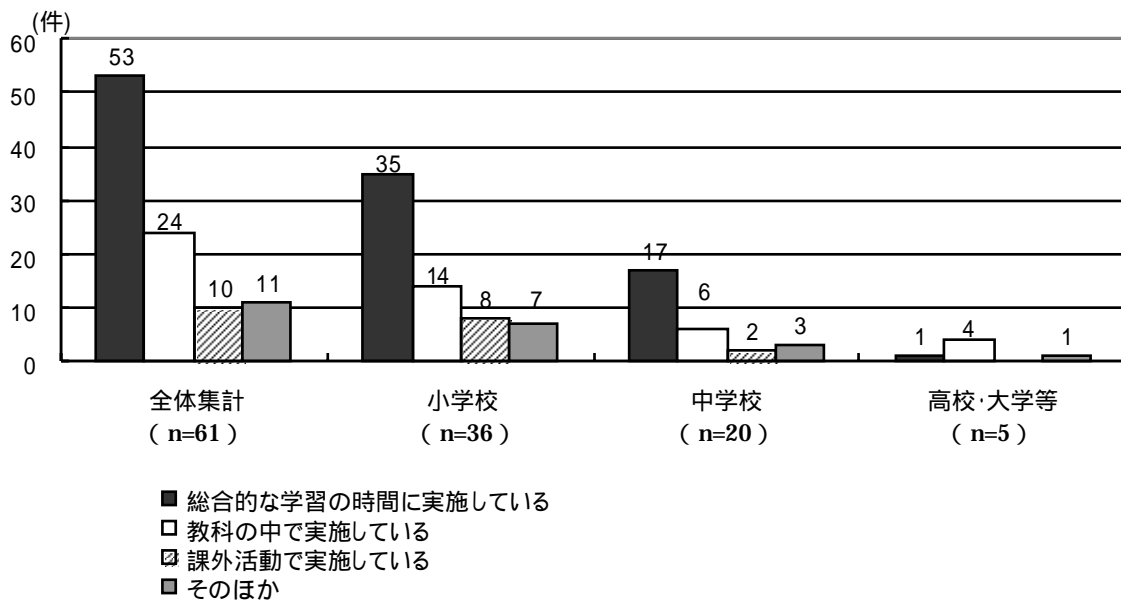


図7. 環境教育の実施時間

「そのほか」を選択した学校 11 校のうち、記入があったもの 9 校についての内訳

- 特別活動 [2 件]
- 特別活動 (クラブ活動) [1 件]
- 特別活動 (学校行事) [1 件]
- 特別活動 (児童会活動) [1 件]
- 特別活動 (生徒会活動) [1 件]
- 特別活動 (学校行事) PTA 活動、地域活動 [1 件]
- 釧路川水辺の楽校 (水辺活用プロジェクト) [1 件]
- 演習 [1 件]

2 - 4 対象学年、時間数等、可能な範囲で具体的な内容、成果、感想等をご記入ください。	
回答(様式自由)	これらが記載されている文書等の同封に代えていただいてもかまいません。
	問2 - 5へ

自由記入欄の内容について、いくつかの項目に分類し集計を行い、自由記入の内容から読み取ることが可能な情報の範囲内において分析を行いました。

また、体系的に環境教育に取り組んでいる学校や湿原を題材として環境教育に取り組んでいる学校等については、内容を抜粋して後述しています。

対象学年

小学校においては、3年生以上の学年を対象として環境教育を行う学校が多くなっています。中学校においては、1年生を対象として環境教育を行う学校が多く、2、3年生においては実施している学校の割合は低くなってきています。

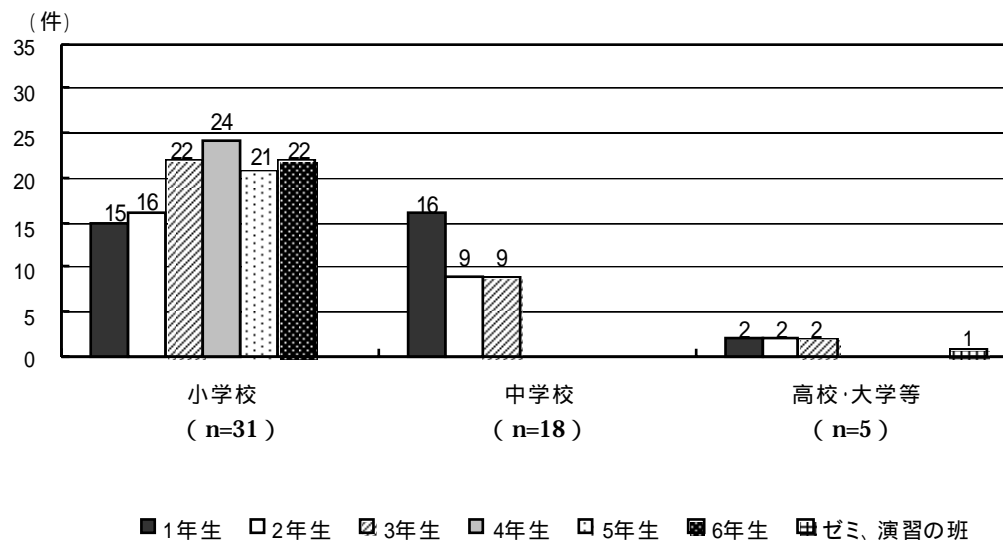


図8 . 環境教育対象学年

環境教育の実施にあてている時間数

実施時間数の記載がある小・中学校について、可能な範囲でとりまとめました（複数回答）。小学校においては、1～2学年と比較して3学年以上から多くの時間数をとって環境教育に取り組んでいる学校が多くなっており、中学校においては、他学年に比べて1学年で多くの時間数をとっている学校が多くなっています。

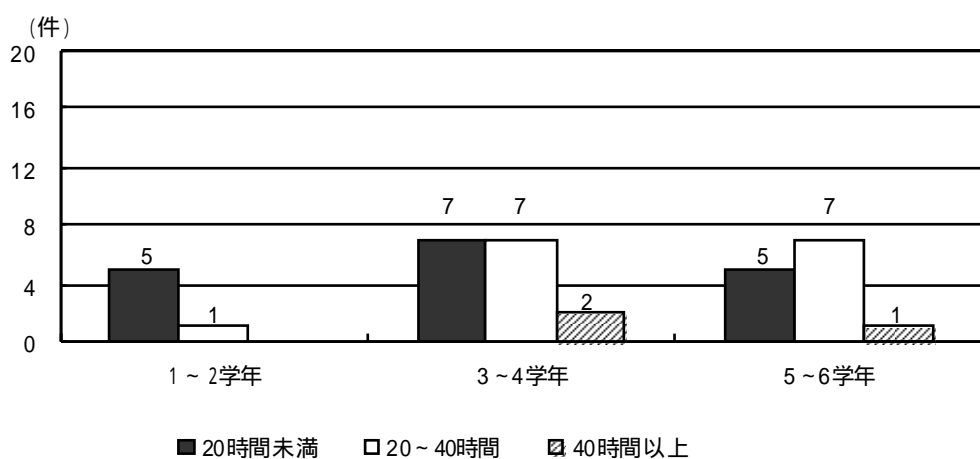


図9．各対象学年に対して環境教育にあてている時間数（小学校 n=19）

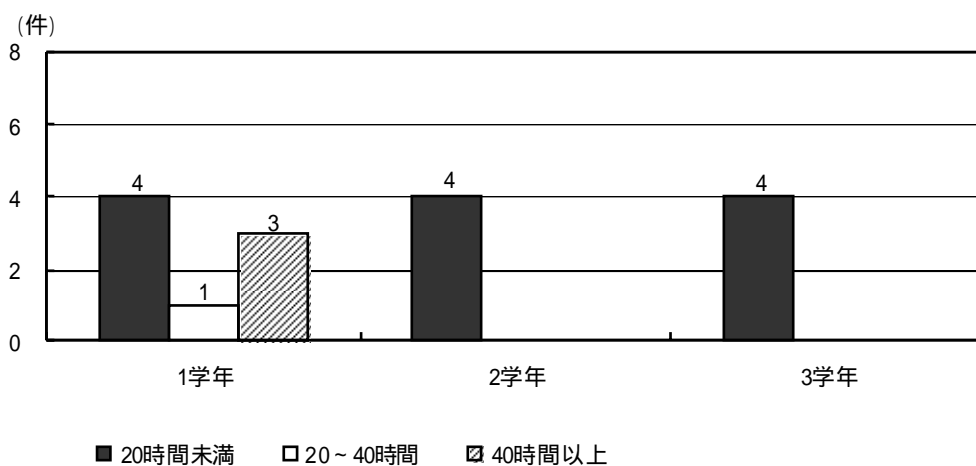


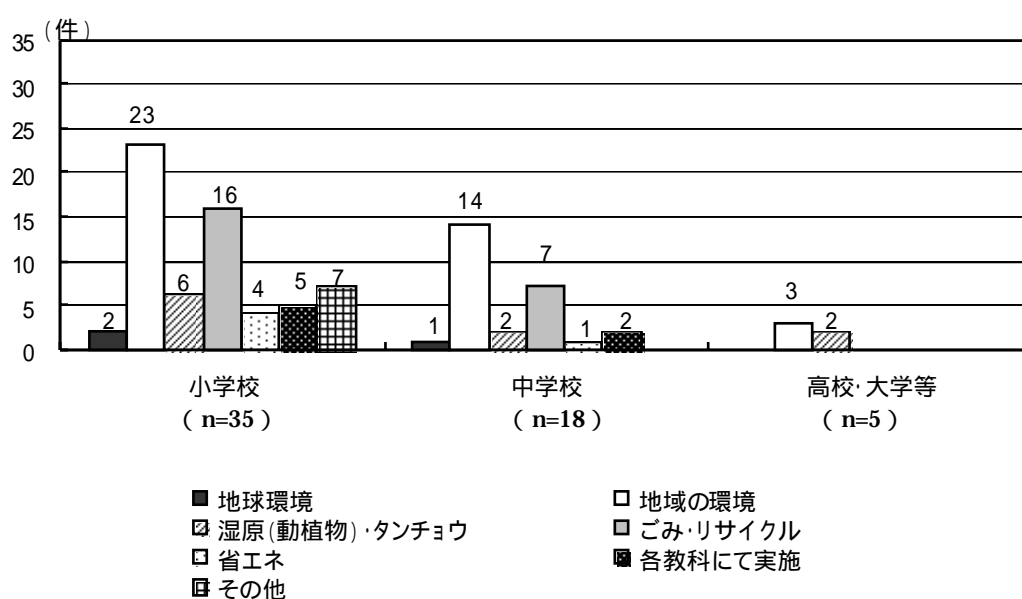
図10．各対象学年に対して環境教育にあてている時間数（中学校 n=8）

選択テーマ

各学校で選択しているテーマを6分野に分類して集計を行いました（複数回答）。

全体として、「地域の環境」をテーマとしている学校が最も多く、身近な自然環境に係る学習を中心とした体験学習や調べ学習を実施している学校が多くなっています。次いで、清掃活動への参加、リサイクル学習を中心とした「ごみ・リサイクル」をテーマとする学校が多くなっています。また、湿原に生息する動植物をテーマとして選択している学校も多く、これらの学校では、「地域の環境」の題材として湿原（生息する動植物を含む）を選択している学校が複数ありました。

なお、各学校で選択している題材は、多くの学校で複数の題材を適宜選択して実施していることがわかります。



各分類の内容

- ・地球環境：地球規模での環境を扱うもの（自然環境・社会環境を含む）
- ・地域の環境：市町村内及びその近郊、学校近郊の環境を扱うもの（自然環境・社会環境を含む）
- ・湿原（動植物）・タンチョウ：湿原に生育・生息する動植物を扱うもの
- ・ごみ・リサイクル：市町村や学校近郊、学校内でのごみ減量の活動、清掃活動、空き缶等の回収
- ・省エネ：学校 ISO の取り組み、節水、節電等を扱うもの
- ・各教科にて実施：教科内の各テーマと連携させて複数の課題を扱うもの
- ・そのほか：畑作体験、動物飼育、交流・意見交換等

図 1 1 . 環境教育実施校における選択テーマ

表 2 . 各学校で選択している題材数（件）

	小学校	中学校	高校・大学等
1種類	17	11	3
2種類	10	6	2
3種類以上	8	1	

なお、回答校における環境教育の題材は以下のとおりです。

地球環境

- ・地球環境の保全に向けた国際的な協力について調べ学習
- ・地球環境問題について調べ、自分たちにできることを実践

地域の環境

- ・「地域を知る」をテーマとして、体験活動・調べ学習等の実施
地域の自然環境調べ、春採湖学習、新釧路川の学習、阿寒町の自然、標茶の自然についての調査研究、阿寒湖ネイチャーウォッチング、鶴居をテーマとした調べ学習、弟子屈町の自然をテーマに調べ学習、理科の中で大気と摩周湖の学習、開発局治水課が実施する水生生物調査に希望者が参加、屈斜路湖水質調査、植物分布、植生調査、川湯エコミュージアムセンターの活用（摩周湖、屈斜路湖の成り立ち・環境変化の学習、動植物の個人調査）、温根内ビジターセンターでの自然観察、北斗遺跡、資料館観察、河川の自然調査、水をテーマとした調べ学習
- ・身近な地域環境の保全に向けた取り組み
- ・体験活動、植樹・育苗、学校林での活動など
カヌー体験、藻琴山登山、鶴居ビジターセンターでの体験学習、マリモ観察会、自然体験活動（自然探索、野鳥観察、資料館見学、化石掘り等）、体験プログラム実施、
トラストサルン釧路の活動参加、植樹、苗木づくり、森林教室、学校林での活動
- ・教科内で様々なテーマで関連づけて実施

ごみ・リサイクル

- ・ごみ問題の学習
- ・ごみの分別、リサイクル学習、リサイクル活動
- ・ゴミ処理場・リサイクルセンター見学
- ・リングプル、プルタブ、空き缶等の回収
- ・地域（学校内外）の清掃活動
- ・石鹼づくり

省エネ

- ・児童会活動にて節電・節水
- ・学校版 ISO の実施

湿原（動植物）・タンチョウ

- ・ビオトープの活用（観察会）
- ・湿原観察会・探索
- ・湿原の動植物を調べる
- ・釧路湿原をフィールドとして、体験・調査を通して知り、保全の取組を調べ、自分たちの出来ることを立案し実践
- ・湿原に住む動植物の季節変化、湿原の成り立ち過程、特徴などの調べ学習

- ・ 釧路湿原の概要、現地での課題別学習
- ・ アメリカ・フロリダ州の中学校と湿原を共通点とした交流の実施
- ・ タンチョウティーチャーズガイドの活用
- ・ タンチョウ生息調査（事前指導での学習）
- ・ タンチョウの給餌

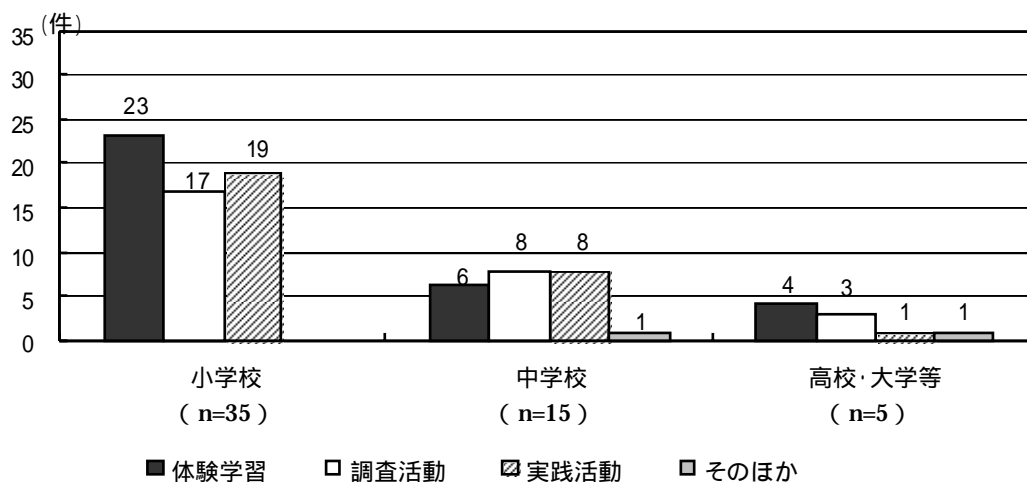
そのほか

- ・ 羊飼育
- ・ 栽培活動・畑作体験
- ・ 花壇活動
- ・ 道外・海外から来釧する学生・研究者等との交流・意見交換

実施内容

環境教育の実施内容について、下記の区分にて分類し集計しました（複数回答）。

総合的な学習の時間を中心として各教科と連携させながら、1つの選択テーマについて体験学習、調査、実践活動まで一連の流れとして実施している学校もありますが、多くの学校では、複数の題材を選択し、各教科内、総合的な学習の時間、特別活動等の中で題材に合わせて学習内容を設定して実施しているようです。



- 1 体験学習：体験を通して児童の気づきを育むもの（施設や自然環境（フィールド）での観察、体験学習プログラムへの参加、カヌー体験等）
- 2 調査活動：児童が課題設定したテーマに対して、聞き取りや書籍、野外でのデータ収集等により取りまとめを行い発表会やレポートなどにまとめるもの。
- 3 実践活動：児童の設定した課題、地域での課題の解決に向けて具体的な行動を実践するもの
- 4 その他：（道外・海外から来道する学生等との交流・意見交換等）

図 1 2 . 環境教育実施校における実施内容

環境教育の実践事例

湿原をテーマとした学習を実施しているもの、各教科と連動させて体系的な実施を試みているものを中心にいくつかの特徴的な事例を抜粋して紹介します。また、各学校が環境教育の題材として選択しているものとして最も多い「地域の環境」をテーマとした事例についても数例を記載します。

湿原をテーマとした学習の事例

釧路町（小学校 5学年 総合的な学習の時間 80時間）

釧路湿原を題材とした一連の学習を通して、以下を単元の目標として3つの段階に分けて系統立てて実施しています。

・学ぼうとする力：

「釧路湿原」に生息する動植物やそれを守ろうとする人々の活動に目を向けて学習を進める中で、湿原を取り巻く様々な課題に気づき、進んで自然・人・社会と関わりながら学習を進めていこうとする。

・学ぶ力：

自ら課題を設定し、体験的な活動を取り入れながら学習を進め、問題解決に向かい、自己学習力を高めようとする。

・地域に関わる力：

「釧路湿原」を題材に学習する中で、地域の良さに気付いたり、問題解決に向かって地域の人や社会に働きかけたり、地域に自分の考えを伝えたりしながら、地域への愛着を深めようとする。また、授業の一環で国の事業への参加協力を行っています。

ステップ1では、釧路湿原に生息する動植物や湿原そのものについて知る学習を展開し、体験・調査を通して湿原を通して「知る」ことを目的に学習を進めます（20時間）。ステップ2で各児童が調べた動植物が減少しているという事実を知り、その原因に目を向けていきます。開発・伐採など人間の行動にその原因があることを知った上で、湿原やそこに住む生物を守ろうとしている人々の活動に目を向け、図書館や博物館での学習だけでなく、インタビューや手紙、電子メール、インターネットなどを通じて、情報活用力やコミュニケーション力、表現力を育てていきます（40時間）。ステップ3では、これまでの学習を踏まえて、釧路湿原、そこに生息する動植物を守るために各自ができることを考え、実行していく活動を展開していきます（20時間）。

釧路市（小学校 3学年、4学年 総合的な学習の時間 34時間）

「湿原探索と発見」をテーマとして、年間総時間の3分の2にあたる34時間を湿原学習に当て、計画、探索、整理、まとめ、発表までを行っています。それらの学習の中で、季節の移り変わりによって様々な変容する植物や動物などの観察やネイチャーセンター職員の説明などを通して、湿原の誕生から特徴まで調べ、年間3回公共バスを使い実地調査活動を行っており、取り組み後も、家庭で自主的に湿原にふれあう機会が増えてきています。

各教科と連動させて体系的に実施している事例

標茶町（小・中学校 小学校 1 学年～中学校 3 学年）

自然を大切に、環境に優しい心豊かな児童生徒の育成を環境教育の目標として、小学校 1 学年から中学校 3 学年までを一貫として捉え、全体計画を立てて、総合的な学習の時間、各教科、特別活動等の時間などで体系的に実施しています。教科では、環境に対する関心、問題解決能力、科学的な見方の育成に重点を置き、各教科での学習内容と連動させて学習を進めています。総合的な学習の時間では、自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断し、問題を解決する資質や能力の育成に重点を置いて、学校林や学校農園での体験活動、問題解決的な学習などを進めています。また、環境保全に対する道徳的实践力を道徳の時間に、実践的な態度の育成を特別活動において視点を置いて実施しているほか、指導方法や教材の工夫を行いながら、保護者や地域との連携を図りながら学習を進めています。

地域学習についての事例

釧路市（小学校 5 学年 総合的な学習の時間 25 時間）

釧路のまちについて話し合いを行った後に、テーマを決めてインターネットや図書室の本で調べ学習を行います。その後、グループに分かれて現地学習を実施し、それらから得られたことをまとめ、発表を行うとともに、釧路のパンフレットや辞典などを作成し観光名所などへ配架協力の依頼を行っています。

釧路町（小学校 3～6 学年 総合的な学習の時間 各学年 30 時間）

生活圏の自然環境を 3～6 学年で一貫したテーマとして、発達段階に応じた学習を行っています。身近な地域をフィールドとした体験活動や調査活動を通して、地域の環境や身の回りの環境に対する興味や関心を促し、地域の自然や社会の仕組みへ目を向けさせていきます。それらの保全に向けて自分達に出来ることを探求するとともに、実践にも取り組むことで、様々な場面においても課題解決に取り組む意欲を育てています。

釧路市（中学校 1 学年 総合的な学習の時間 35 時間）

地域探検をテーマにして、課題の設定及び追求、課題の掘り下げ、それらの表現までを学習します。総合的な学習の意義について理解した後に、各児童の興味関心があるテーマを設定します。それらの研究計画を立案し、インターネットや書籍、専門家などの話から資料を収集します。これらの収集資料を分析するとともに課題の掘り下げを行い、各自の考えや意見を明確化させていきます。最後に、これら表現するための方法を決め、発表を行います。各段階において反省と振り返りを行いながら学習をすすめています。

2 - 5 実施における課題等があれば、可能な範囲でご記入ください。

回 答(様式自由)

問3 - 1へ

自由記入欄の内容について、いくつかの項目に分類し集計を行いました。記載がないものや「特になし」と回答した学校が最も多く、「課題がある」とした学校では、郊外での体験学習や調査活動に係る事項での課題が最も多く、次いで指導者や環境教育全般についての課題が高い割合となっています。

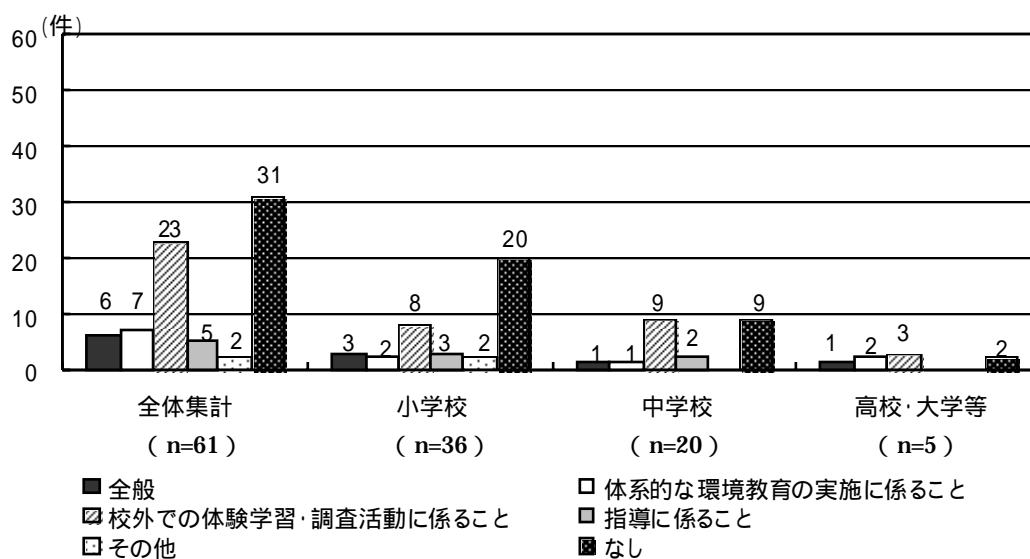


図 1 3 . 環境教育実施校における実施に際しての課題

なお、課題の記載内容の概要は以下のようになっています。

表3 . 課題の内容 (件)

(複数回答)

課題区分	内容	小学校	中学校	高校・大学等
全般	予算	2	1	
	時間	2		1
体系的な環境教育の実施に係ること	課題の選択	1		
	体系的な取組	1	1	1
	目標の設定	1		
	評価			1
指導に係ること	学習資料	1		
	指導者	2	2	
	連絡調整			1
校外での体験学習・調査活動に係ること	予算	4	1	1
	時間	3	1	
	移動	3	3	
	施設整備	1		
	生徒数	1	1	
	天候	1		1
	体験学習の段取り		1	
	施設、設備の充実		1	
その他	地域での状況 (児童の学習意欲が低下)	1		
	連絡調整	1		

2 - 6 環境教育を実施されていない理由を差し支えない範囲でご記入ください。	
回 答(様式自由)	
	問2 - 7へ

「環境教育を実施していない」と回答した 18 校及び環境教育の実施状況についての記載がなかった 1 校を含めた全 19 校について、実施に際しての制約要因をまとめました。

全体の傾向として、他教科との調整が必要でありカリキュラムの大幅な見直しなくして導入は難しいという意見が多くなっています。これらは単に時間的な制約に留まらず、環境教育と他教科それぞれにおける位置づけの見直しが必要という視点を含めた意見として出されています。また、総合的な学習の時間などで時間数をとっていないものの各教科内で関連させながら実施していることや、地域学習や福祉教育など他の題材を選択していることなどから、今後も環境教育の実施意向がないと回答した学校も多くなっています。

表 5 . 環境教育の実施に係る制約要因の内容 (件) (複数回答)

	回答校全体 (n=19)	小学校 (n=9)	中学校 (n=6)	高校・大学等 (n=4)
各教科にて実施している	8	6	2	0
他教科との調整(カリキュラムの大幅な見直し)	7	3	3	1
他の題材を選択している(地域学習、福祉教育)	6	3	3	0
移動	2		1	1
他の体験活動との調整	1		1	
指導者	1			1
時間	1		1	0
職員間の理解	1			1
予算	1			1

2-7 環境教育を新しく導入していく場合、どのような支援や条件が必要になるでしょうか、考えられるものを全て選んで をつけてください。 を選んだ場合には、可能な範囲で具体的にご記入ください。		
回答	選択肢	
	指導資料等授業のプログラムやマニュアルの整備	問3-1へ
	外部からの講師の派遣	
	予算(予算規模、利用目的を可能な範囲でご記入ください)	
	そのほか(具体的にご記入ください)	

「環境教育を実施していない」と回答した 18 校に加え、実施していると回答した学校のうち本設問に回答いただいた学校 22 校について集計しました。なお、集計にあたっては、設問 2-1 で「環境教育を実施している」、「実施の意向はあるが現在のところ実施していない」、「実施の意向はない」と回答した学校ごとに区分して行いました。

設問 2-1 の回答による大きな違いは見られず、全体として授業のプログラムやマニュアルの整備、外部からの講師の派遣等、環境教育の指導に係る項目が高い割合を占めています。実施校においては、フィールドでの体験学習実施に係る予算、特に児童の移動に係るバス代を支援条件として挙げる学校が多く、また、設問 2-1 への回答に関わらず、外部講師の謝礼等、活動経費に係る内容が挙げられています。

そのほかの支援条件として、「環境教育を実施していない」と回答した学校においては、カリキュラム内での位置づけの整理や各教科における指導の充実といった事項が挙げられています。

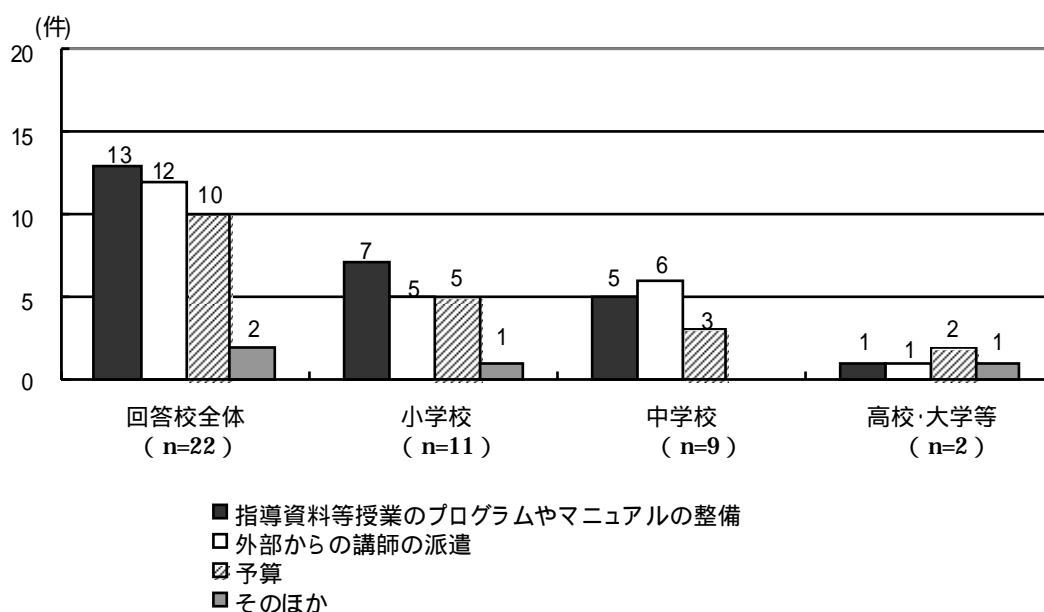


図 1 4 . 環境教育の実施に際して必要な支援方策及び実施条件 (環境教育実施校)

「 予算 」を選択した学校 10 校のうち、記入があったもの 6 校についての内訳

バス代 [4 件]

活動経費全般 [1 件]

資材購入費 [1 件]

「 そのほか 」を選択した学校 2 校についての内訳

移動手段 [1 件]

名目ばかりの環境教育の情報に学生が混乱する [1 件]

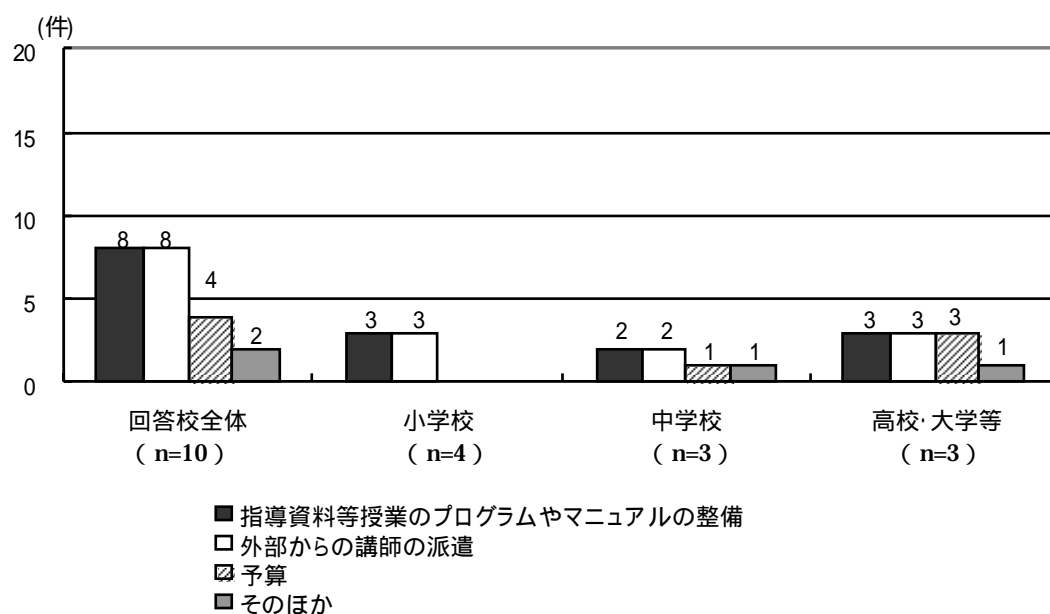


図 1 5 . 環境教育の実施に際して必要な支援方策及び実施条件 (意向はあるが実施していない)

「 予算 」を選択した学校 4 校のうち、記入があったもの 3 校についての内訳 (複数回答)

バス代 [2 件]

外部講師謝礼 [1 件]

活動経費全般 [1 件]

交通費 [1 件]

「 そのほか 」を選択した学校 2 校についての内訳

カリキュラム内での位置づけ [1 件]

他教科との調整 [1 件]

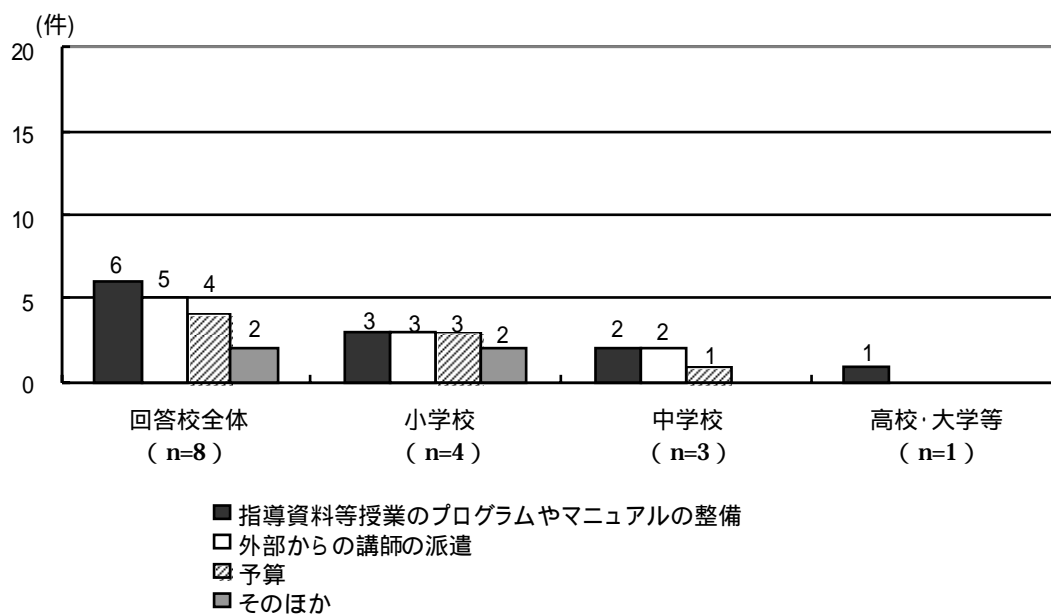


図 1 6 . 環境教育の実施に際して必要な支援方策及び実施条件（実施の意向なし）

「 予算 」を選択した学校 4 校のうち、記入があったもの 2 校についての内訳

活動経費全般 [1 件]

資材購入費 [1 件]

「 そのほか 」を選択した学校 2 校についての内訳

移動手段 [1 件]

各教科での指導充実 [1 件]

3 . 湿原を題材とした教育の実施状況について

以下の設問では、湿原でのマラソンや遠足等、環境教育以外の活動も含めて、また、実施単位としては学年、学級、グループ単位での実施も含めてご回答ください。

3 - 1 湿原を題材またはフィールドとした教育活動を実施していますか、1つ選んで をつけてください。		
回答	選択肢	
	実施している 該当する実施単位を全て選んで をつけてください。 実施単位 学校 ・ 学年 ・ 学級 ・ グループ	問3 - 2へ
	実施の意向があるが、現在のところ実施していない	
	実施の意向はない	問3 - 5へ

全体を通して、「実施している」と回答している学校数は2～3割となっていますが、実施の意向がある学校も含めると半数以上の学校において、湿原を題材とした教育活動に何らかの関心を寄せていることがわかります。

「実施している」と回答した26校については、学年単位で実施しているものが全体として割合が高くなっています。また、小学校ではグループ単位での実施は見られませんが、中学校以上においては、グループ単位での学習機会が多くなってきていることがわかります。

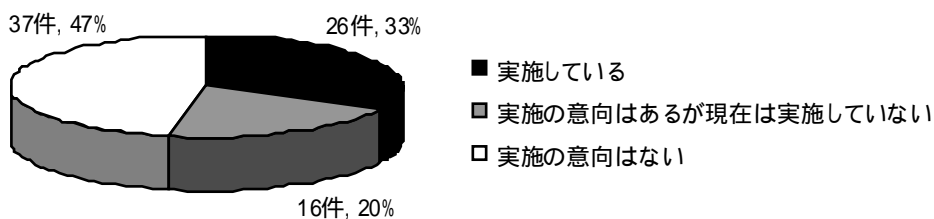


図17 . 湿原を題材またはフィールドとする教育活動の実施状況 (回答校全体 n=79)

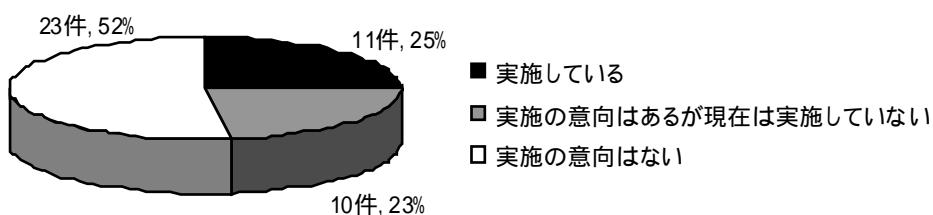


図18 . 湿原を題材またはフィールドとする教育活動の実施状況 (小学校 n=44)

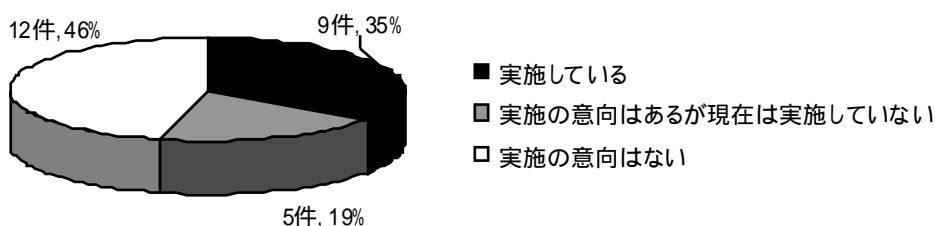


図19 . 湿原を題材またはフィールドとする教育活動の実施状況 (中学校 n=26)

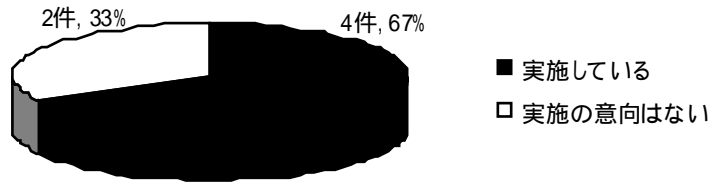


図 2 0 . 湿原を題材またはフィールドとする教育活動の実施状況 (高等学校 n=6)

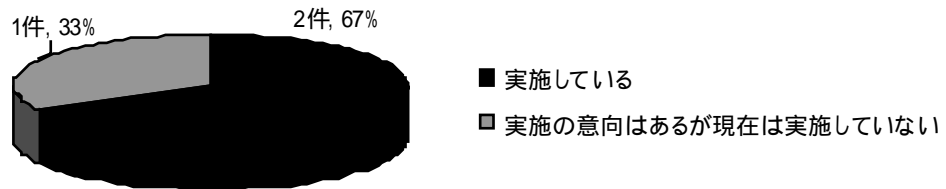


図 2 1 . 湿原を題材またはフィールドとする教育活動の実施状況 (大学・高専等 n=3)

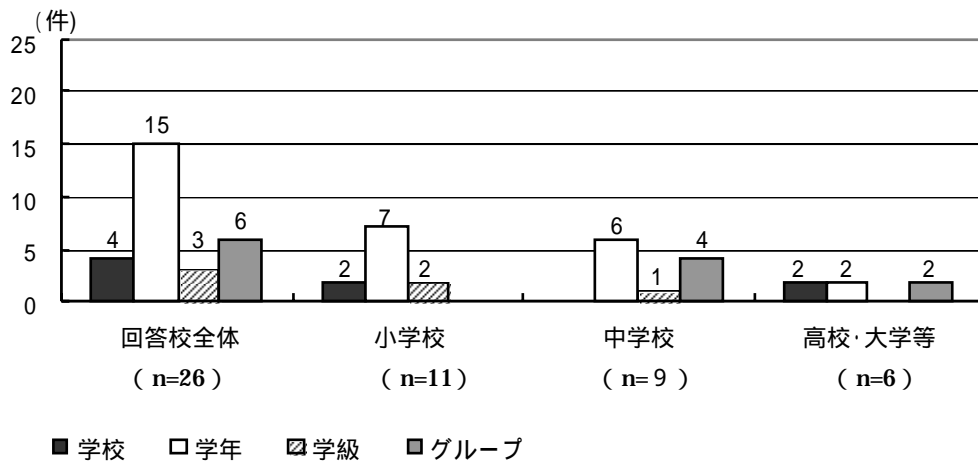


図 2 2 . 湿原を題材とした教育活動における実施単位

3 - 2 どのような時間を実施していますか。当てはまるものを全て選んで をつけてください。	
回答	選択肢
	総合的な学習の時間を実施している
	教科の中で実施している
	課外活動で実施している
	そのほか()

問3 - 3へ

全体の傾向として、総合的な学習の時間で実施する学校が最も多く、次いで各教科の中で実施している学校が多くなっています。これは、2-3の設問「環境教育の実施時間」への回答と同様の傾向となっています。

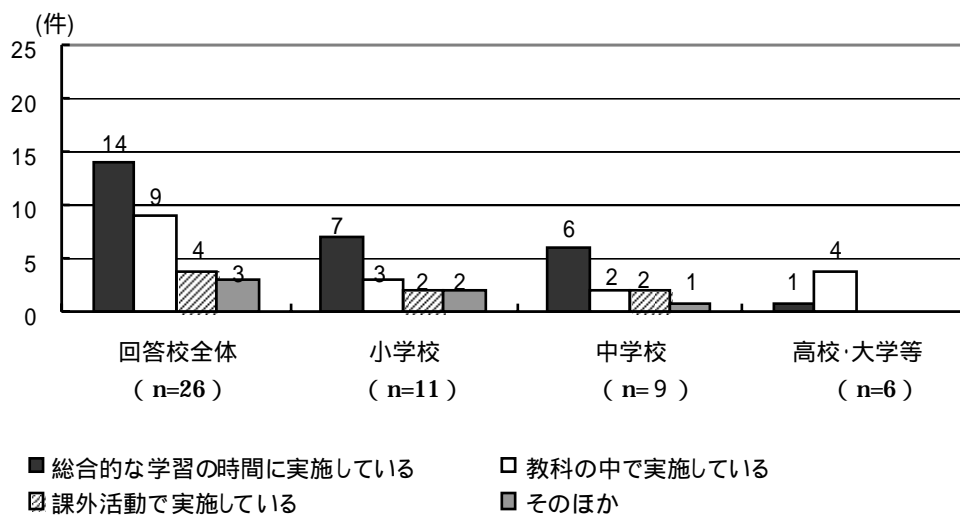


図 2 3 . 湿原を題材とした教育活動における実施時間

- 「その他」を選択した3校についての内訳
- 体育的行事 [2件]
 - 学校行事(遠足)[1件]

3 - 3 対象学年、時間数等、可能な範囲で具体的な内容、成果、感想等をご記入ください。

回答(様式自由) これらが記載されている文書等の同封に代えていただいてもかまいません。

問3 - 4へ

自由記入いただいた内容を、遠足やマラソン等の行事とそれ以外の活動に区分して概要を以下にまとめています。なお、2 - 4「環境教育実施に係る対象学年、時間数、具体的な内容、成果、感想等」に本項目に該当する実施内容の記述がある学校については、その内容も含めて集計しました。

湿原を題材とする教育活動（マラソン等の活動を除く）の実施概要

・対象

小学校においては、4年生を中心として前後の学年も含めて対象として湿原を題材もしくはフィールドとする教育活動を行う学校が多くありました。

中学校においては、1年生を対象として行う学校が多く、回答校においては2、3年生を対象とする学校はみられませんでした。

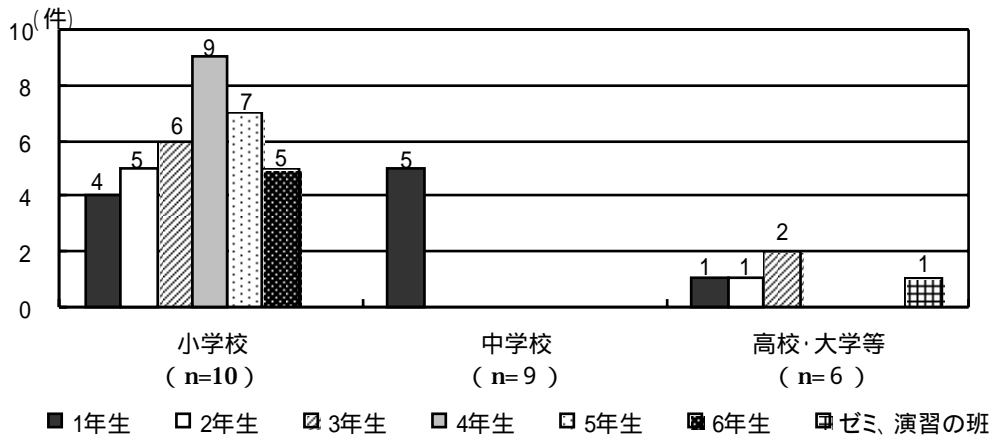


図2 4 . 湿原を題材とした教育活動における対象（マラソン等の活動は除く）

・実施概要

なお、市町村区分毎にまとめると、以下のとおりとなります。

表5 . 湿原を題材とする教育活動（マラソン等の活動を除く）の概要

	市町村	実施概要
小学校	釧路市	「くしろのまちを調べよう」をテーマにグループにて課題選択(5年 25時間 総合) その中で、湿原を題材とする生徒もいる キナシベツ湿原の自然をテーマに学習
		「湿原探索と発見」をテーマに湿原学習を実施 (3,4年 35時間 総合) 「釧路のここがすばらしい」のテーマの中でグループにて課題を選択 釧路湿原を取り上げて活動したグループもある
		社会科の科目内で校外学習、理科の科目内で湿原探索を実施
		湿原の動植物について調べの学習を実施。 おたまじゃくしの飼育と放流や、外部講師を招聘(年3回)した特別授業を実施
	釧路町	湿原をフィールドとして、体験や調査活動を通して湿原を知り、保全の取組を調べ、 自分たちの出来ることを立案し実践している (5年 総合 80時間) 花咲じいさんプロジェクトへの協力(種の採取、育苗、植樹) (4~6年 総合)
	標茶町	釧路湿原の動植物の観察学習 (全校児童 学校行事午後半日)
	鶴居村	タンチョウウー斉調査への協力 タンチョウウへの給餌活動
	鶴居村	春、秋の2回、指導員の説明のもとで湿原探索を実施 (3,4年 総合 25時間)
弟子屈町	「春をさがそう」行事の中でネイチャーゲームなどを通して湿原の動植物に対する知識を深める	
中学校	釧路市	「地域を知る」をテーマに、各児童にて課題を設定 (1年 総合 35時間) 湿原をテーマに選択する児童もいる 「自分と地域環境との関わり」をテーマに、課題解決的な学習を実施 (1年 総合 23時間)
		釧路湿原の概要を知る、フィールドワーク(木道散策、オリエンテーリング、現地での課題別学習)を実施
		釧路町
	標茶町	「標茶の自然」をテーマにグループ単位で調査研究を実施。(1年 総合 35時間)
高等学校	道立	温根内ビジターセンターでの自然観察、北斗遺跡、資料館観察等の現地学習を実施 (1年 教科内で実施 20時間)
		タンチョウウティーチャーズガイドの活用 (3年 選択授業 3時間)
大学・高専等	高専等	釧路湿原等の自然環境を題材として、生徒自らが課題を設定し、調査活動、発表を行う(2,3年生 教科内で実施 14時間)
	大学	トラストサルン釧路の活動へ参加 環境地理学演習にて調査研究、道外・海外から来釧する学生・研究者等との交流・意見交換を実施 年1回の釧路湿原視察ツアーの実施。

マラソン等の活動

マラソン等のフィールドとして湿原を活用していると回答した学校は6校でした。

表6 . 湿原をフィールドとしたマラソン等の活動(件) (複数回答)

対象学年	湿原強歩 (n=3)	湿原マラソン (n=2)	湿原遠足 (n=2)
中学1年			1
中学陸上部		2	
中学校全学年	1		
高等学校全学年	2		

3 - 4 実施における課題等があれば、可能な範囲でご記入ください。

回 答(様式自由)

問4 - 1へ

小学校においては、湿原への現地学習実施に係る課題が挙げられており、移動に際しての予算や多くの時間を移動に費やしてしまうといった課題を中心に、現地学習における指導者や調整事務、安全対策、天候に左右されるなど、その内容は多岐にわたります。

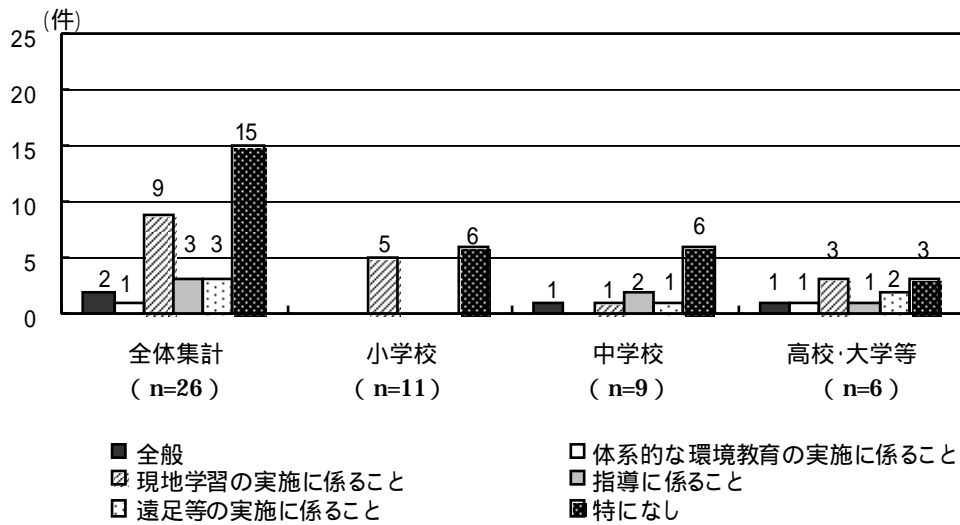


図 2 5 . 湿原を題材とした教育活動の実施校における実施に際しての課題

なお、課題の記載内容の概要は以下のようになっています。

表7 . 各課題の内容(件) (複数回答)

全般	時間	2
	予算	1
体系的な環境教育の実施に係ること	体系的な取組	1
現地学習の実施に係ること	予算	4
	時間	3
	移動	1
	交通手段	1
	現地学習の日程調整	1
	生徒数	1
	指導者	1
	連絡調整	1
	安全対策	1
	天候	1
指導に係ること	指導者	2
	資料収集	1
遠足等の実施に係ること	安全性	2
	距離	1
	児童の健康管理	1
	人員が多数必要	1
	受入施設の調整	1
	生徒数	1

3 - 5 湿原を題材とした教育活動を実施されていない理由を、差し支えない範囲でご記入ください。

回答(様式自由)

問3 - 6へ

「湿原を題材とした教育活動を実施していない」と回答した53校のうち、記載のあった49校について、自由記入いただいた内容を4項目に区分し、設問3-1の回答区分ごとに集計を行いました。

実施の意向によらず、「身近な素材ではない」、「他に適した素材がある」等の意見を中心とした『既に取り組んでいる題材がある』といった項目、「移動手段の確保」、「距離」等の意見を中心とした『フィールドとして適さない』といった項目に関する意見が多く挙げられています。実施意向がない学校においては、題材やフィールドとしての適正、学校の方針等を踏まえて、「学校として必要性を感じない」、「カリキュラムの見直しが必要」等の意見も見られます。

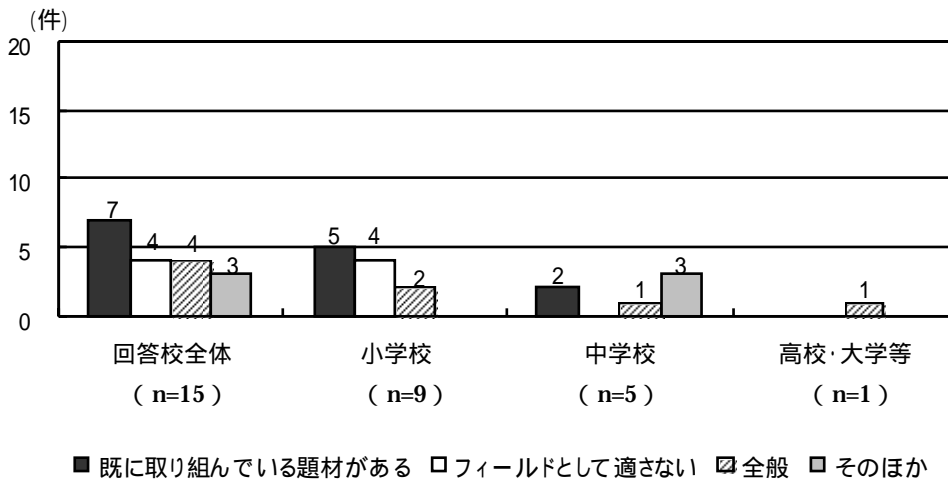


図 2 6 . 湿原を題材とした教育活動実施に係る制約要因 (実施意向あり)

表 8 . 湿原を題材とした教育活動に係る制約要因の概要 (実施意向あり n=15 複数回答)

大項目	詳細項目	全体	小学校	中学校	高校・大学等
既に取り組んでいる題材がある	授業時間の確保	2	1	1	
	身近な素材ではない	3	3		
	他に適した素材がある	2	1	1	
フィールドとして適さない	移動手段の確保	1	1		
	距離	2	2		
	授業時間の確保	1	1		
全般	授業時間の確保	2		1	1
	情報不足	1	1		
	予算	1	1		
そのほか	今年度は選択テーマではなかった	1		1	
	生徒の課題選択に依存	2		2	

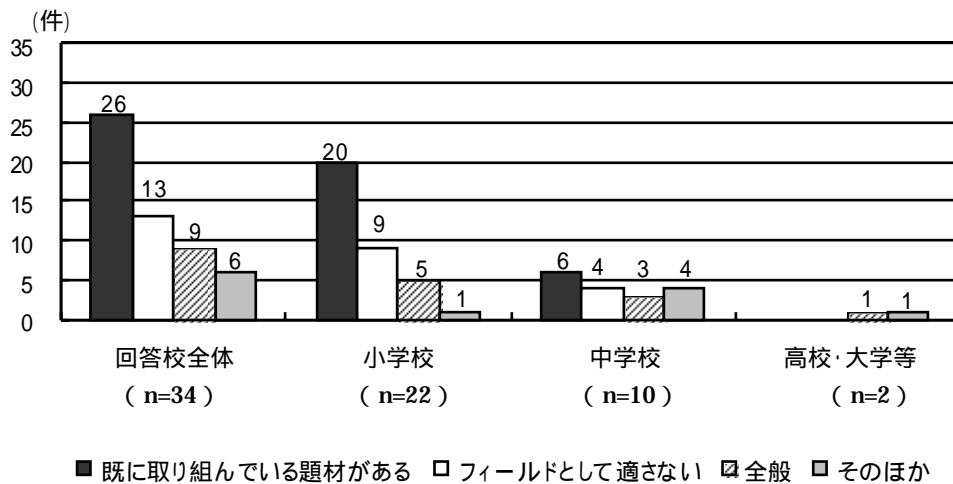


図 27 . 湿原を題材とした教育活動実施に係る制約要因 (実施意向なし)

表 9 . 湿原を題材とした教育活動に係る制約要因の概要 (実施意向なし n=34 複数回答)

大項目	詳細項目	全体	小学校	中学校	高校・大学等
既に取り組んでいる題材がある	身近な素材ではない	13	10	3	
	他に適した素材がある	13	10	3	
フィールドとして適さない	移動手段の確保	4	3	1	
	距離	6	3	3	
	交通費	2	2		
	授業時間の確保	1	1		
全般	授業時間の確保	3	1	1	1
	必要性が低い	5	4	1	
	予算	1		1	
そのほか	各教科にて実施している	1	1		
	学校規模	1		1	
	教育活動の方針	1		1	
	指導者	2		1	1
	大幅なカリキュラムの見直し	1		1	

3 - 6 湿原を題材とした教育を新たに導入しようとする場合、どのような支援や条件が必要になるでしょうか。考えられるものを全て選んで をつけてください。、 を選んだ場合には、可能な範囲で具体的にご記入ください。		
回 答	選 択 肢	
	指導資料等授業のプログラムやマニュアルの整備	問4 - 1へ
	外部からの講師の派遣	
	予算(予算規模、利用目的を可能な範囲でご記入ください)	
	そのほか(具体的にご記入ください)	

「湿原を題材とした教育活動を実施していない」と回答した53校のうち記載のあった50校に加え、「湿原を題材とする教育活動を実施している」と回答した学校のうち、本設問に回答のあった8校について集計しました。なお、集計にあたっては、設問3-1で「湿原を題材とした教育活動を実施している」、「実施の意向はあるが現在のところ実施していない」、「実施の意向はない」と回答した学校ごとに区分して行いました。

設問3-1への回答に関わらず、授業のプログラムやマニュアルの整備、外部からの講師の派遣等、指導に係る項目が高い割合を占めているほか、フィールドでの体験学習実施に係る予算、特に児童の移動に係るバス代を支援条件として挙げる学校が多くなっています。

「湿原を題材とした教育活動を実施していない」と回答した学校においては、実施の意向に関わらず、そのほかの支援条件として、他題材との調整、教育課程での位置づけの整理、時数の確保、移動手段の確保などが挙げられています。また、実施の意向がないと回答した学校においては、題材として湿原を活用していくことについての難しさ等も挙げられています。

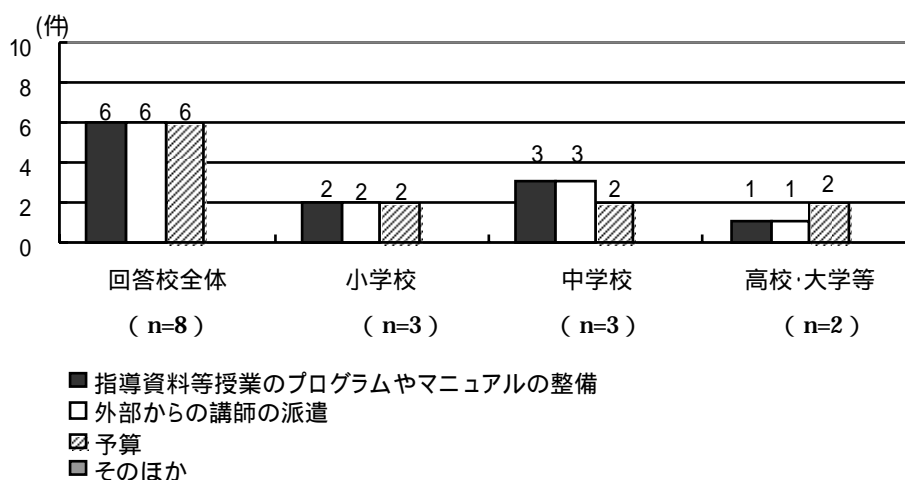


図 2 8 . 湿原を題材とした教育活動実施に係る必要な支援方策及び実施条件 (実施校)

「 予算 」を選択した 6 校のうち、記入があったもの 5 校についての内訳

バス代 [4 件]

活動経費全般 [1 件]

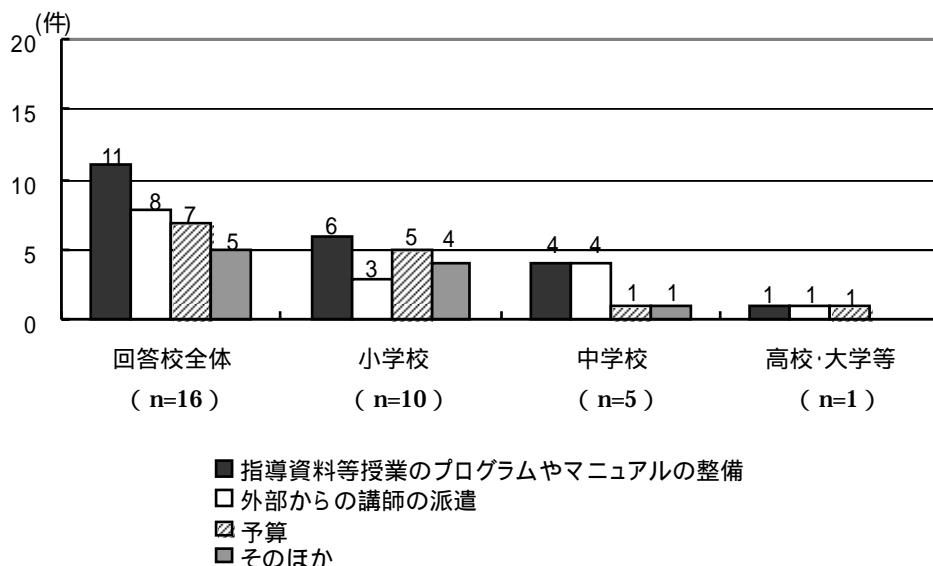


図 2 9 . 湿原を題材とした教育活動実施に係る必要な支援方策及び実施条件 (実施意向あり)

「 予算 」を選択した 7 校の内訳 (複数回答)

バス代 [6 件]

活動経費全般 [1 件]

教材購入費 [1 件]

見学料 [1 件]

「 そのほか 」を選択した 5 校についての内訳

他題材との調整 [1 件]

移動手段の確保 [1 件]

教育課程の見直し [1 件]

時間数の確保 [1 件]

他領域での学習内容 (すでに実施しているもの) の整理の上に、実施のための時数が出てくるので、その整理が難しい [1 件]

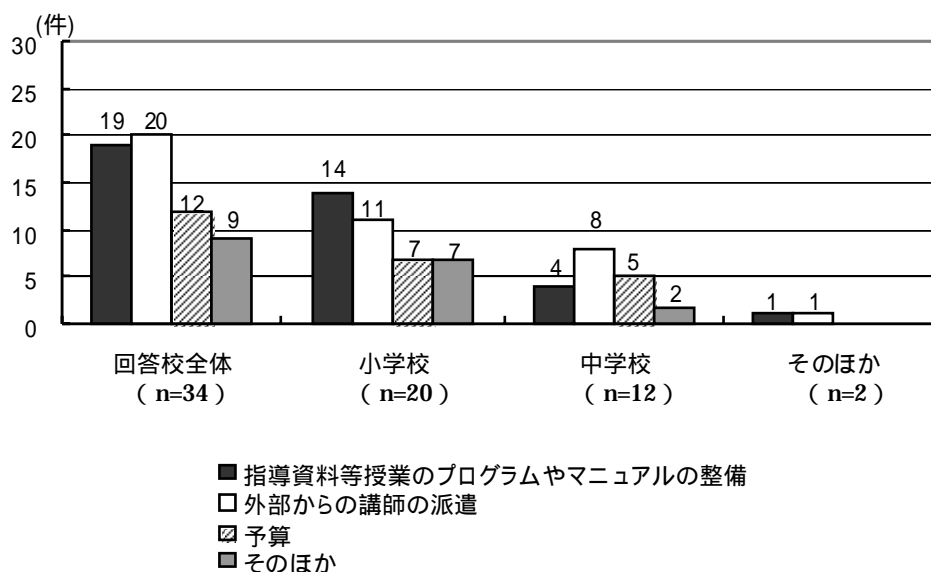


図 30 . 湿原を題材とした教育活動実施に係る必要な支援方策及び実施条件（実施意向なし）

「 予算 」を選択した 12 校のうち、記入があったもの 5 校についての内訳
 バス代 [5 件]

「 そのほか 」を選択した 9 校についての内訳
 バスの手配、時間数の確保 [1 件]
 距離 [1 件]
 交通手段の確保 [1 件]
 時間数の確保・時数確保 [2 件]
 体験学習のメニューやスタッフ、移動手段の手配 [1 件]
 理科や社会で活用可能な副読本の作成 [1 件]

（以下、興味深い意見については原文を記載）

- ・移動時間がとられるため、実際の活動時間が短くなり、よほど綿密な計画の基に行われる価値ある活動であっても教育課程に位置づけることは難しい。
- ・今後、学習指導要領が改訂となり、総合的な学習の時間の時間数削減が予想されている。現行の学習計画を整理する中で、湿原を題材（フィールド）とした学習をどのように組み込むことができるか、課題だと考えている。
- ・子供の発達と題材を用いることのねらいについて吟味する必要がある [1 件]
- ・新たな導入の必要性がない

4 . 湿原を題材とした環境教育への意向について

<p>4 - 1 釧路湿原自然再生協議会では、湿原を活用した環境教育の推進方策を検討していくために、同協議会メンバーの有志から成る環境教育ワーキンググループ(座長:高橋忠一北海道教育大学釧路校准教授)を設置しています。このワーキンググループの活動に関心がありますか。以下から1つ選んで をつけてください。(釧路湿原自然再生協議会については、別添の同封資料をご参照ください。)</p>	
回 答	選 択 肢
	関心がある。 仮に、メンバーとして参加をご検討いただく場合、参加にあたっての条件があれば以下にご記入ください。
	特に関心はない
問4 - 2へ	

本設問から 4-3 の設問に共通して、「回答校全体」、「小学校」、「中学校」、「高校・大学等」について、設問 3-1 の回答区分ごとに関心度を集計しました。

全体としては、3 割の学校で「関心がある」と回答していますが、特に小学校においては「関心がある」と回答した学校が 45% と非常に高くなっています。

設問 3-1 の回答区分ごとでは、実施校においては約半数の学校で「関心がない」と回答していますが、「実施意向があるが現在のところ実施していない」と回答した学校においては、特に小学校において高い割合で関心があると回答しています。また、「実施意向はない」とした学校であっても、小学校においては、「関心がある」と回答した学校も多くあることがわかります。

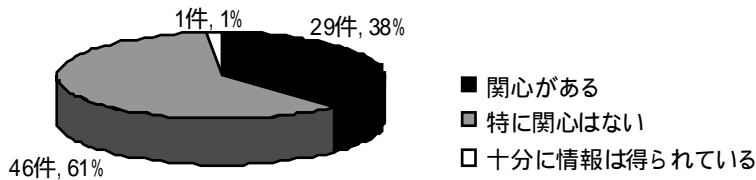


図 3 1 . 環境教育ワーキンググループへの関心 (回答校全体 n=76)

表 1 0 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 環境教育 WG への関心度 (回答校全体)

	実施校	実施意向あり	実施意向なし	実施不明
関心がある	10	11	7	1
関心がない	14	5	27	0
十分に情報は得られている	1	0	0	0

メンバーとして参加を検討いただく際の参加にあたっての条件

[小学校]

- ・ 関心はありますが参加の意思はありません。
- ・ 個人的には協議会が主催した講演会などに参加している。
- ・ 進展された方策を資料として欲しい。
- ・ 特に考えていないが、今後取り組みたい。

[中学校]

- ・ 時間がない

[そのほか]

- ・ 関心はあるが、学校業務及び部活動指導で思うように時間が取れません。

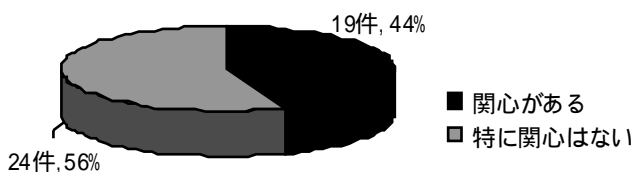


図 3 2 . 環境教育ワーキンググループへの関心 (小学校 n=43)

表 1 1 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 環境教育 WG への関心度 (小学校)

	実施校	実施意向あり	実施意向なし	実施不明
関心がある	4	8	6	1
関心がない	7	2	15	0

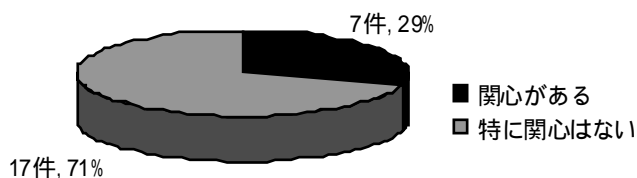


図 3 3 . 環境教育ワーキンググループへの関心 (中学校 n=24)

表 1 2 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 環境教育 WG への関心度 (中学校)

	実施校	実施意向あり	実施意向なし
関心がある	4	2	1
関心がない	4	3	10

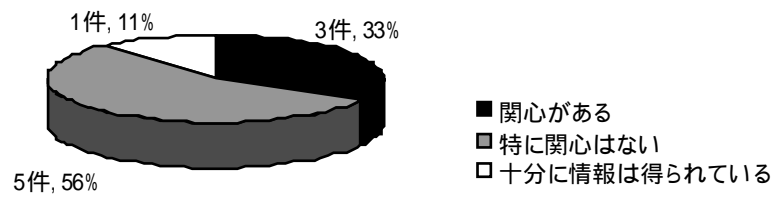


図 3 4 . 環境教育ワーキンググループへの関心 (高校・大学等 n=9)

表 1 3 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 環境教育 WG への関心度 (高校・大学等)

	実施校	実施意向あり	実施意向なし
興味がある	2	1	0
関心がない	3	0	2
十分に情報は得られている	1	0	0

4 - 2 湿原を題材とする環境教育のプログラムや教材に関心はありますか。以下から1つ選んで をつけてください。	
回 答	選 択 肢
	関心がある。(プログラムや教材づくりへの協力も考えたい。) 仮に、ご協力いただける場合、条件があれば以下にご記入ください。
	特に関心はない

問4 - 3へ

全体としては、4割程度の学校で「関心がある」と回答しており、設問 41 で「関心がない」とした学校においても、本設問では「関心がある」と回答いただいている学校が増えています。特に中学校においては、その変化が大きくなっています。設問 3-1 の回答区分ごとでは、全体を通して、設問 4-1 回答と同様の傾向がみられますが、設問 4-1 に比べて、「関心がある」と回答する学校が増加している傾向にあります。

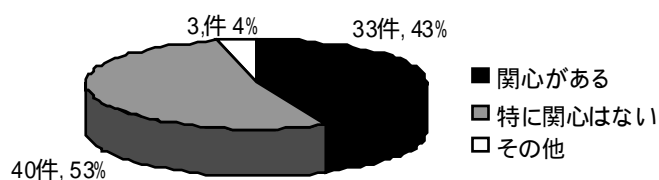


図 3 5 . 湿原を題材とする環境教育プログラムや教材への関心 (回答校全体 n=76)

表 1 4 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 プログラム・教材等への関心度 (回答校全体)

	実施校	実施意向あり	実施意向なし	実施不明
関心がある	11	12	9	1
関心がない	13	3	24	0
そのほか	2	1	1	0

「関心がある」「特に関心がない」の選択項目以外の「そのほか」内訳

[小学校]

- ・ 関心はあるが、協力は除く
- ・ 関心はあるが、資料提供のみ希望
- ・ どちらとも言えない

協力をいただける場合の条件

[小学校]

- ・ 関心はありますが、現状を考えますと協力はできません
- ・ 現在活動中の地域の河川を利用、題材にした学習プログラム
- ・ 資料がほしい

[中学校]

- ・ 時間がない

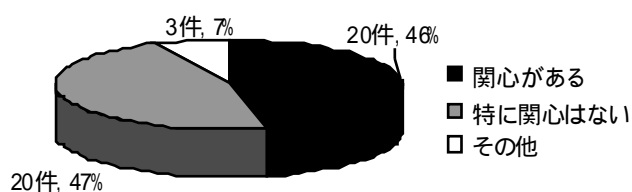


図 3 6 . 湿原を題材とする環境教育プログラムや教材への関心 (小学校 n=43)

表 1 5 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 プログラム・教材等への関心度 (小学校)

	実施校	実施意向あり	実施意向なし	実施不明
関心がある	4	8	7	1
関心がない	6	1	13	
そのほか	1	1	1	

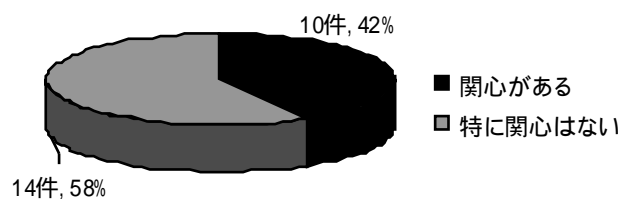


図 3 7 . 湿原を題材とする環境教育プログラムや教材への関心 (中学校 n=24)

表 1 6 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 プログラム・教材等への関心度 (中学校)

	実施校	実施意向あり	実施意向なし
関心がある	5	3	2
関心がない	3	2	9

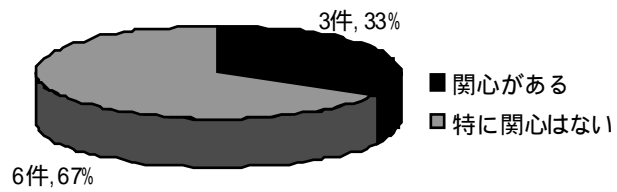


図 3 8 . 湿原を題材とする環境教育プログラムや教材への関心 (高校・大学等 n=9)

表 1 7 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 プログラム・教材等への関心度 (高校・大学等)

	実施校	実施意向あり	実施意向なし
関心がある	2	1	0
関心がない	4	0	2

4 - 3 湿原を題材とする環境教育のプログラムや教材が作成された場合、授業での活用等に関心はありますか。以下から1つ選んで をつけてください。		
回 答	選 択 肢	
	関心がある(モデル授業の実施等も考えたい) 実施に当たっての条件等があれば以下にご記入ください。	問4 - 4へ
	特に関心はない	

全体としては、5割程度の学校で「関心がある」と回答しており、実施にあたっての条件についても具体的にいただいております。設問 4-1 から 4-3 では本設問が最も関心を持っていただいていることがわかります。一方、モデル授業等の実施にあたっては、内容次第であること、学校内における他授業との調整等が条件として挙げられています。

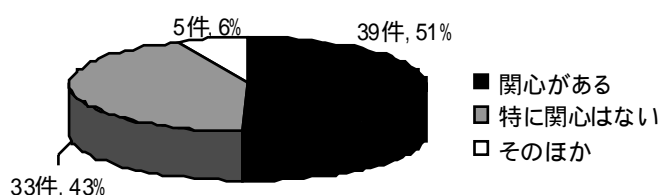


図 3 9 . 湿原を題材とする環境教育プログラムや教材の授業活用への関心 (回答校全体 n=77)

表 1 8 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 授業での活用への関心度 (回答校全体)

	実施校	実施意向あり	実施意向なし	実施不明
関心がある	13	13	12	1
関心がない	10	2	21	0
そのほか	2	1	2	0

「関心がある」「特に関心がない」の選択項目以外の「そのほか」内訳

- 関心はあるが、資料提供のみ希望 [小学校 1 件]
- 関心はあるが、モデル授業実施協力は除く [小学校 1 件]
- どちらとも言えない [中学校 1 件]
- どちらとも言えない(内容による) [中学校 1 件]
- 特に関心はない(プログラムやマニュアルなど対応の仕方が固定化してしまう恐れもあるので) [そのほか 1 件]

モデル授業実施にあたっての条件

学年の発達段階を考慮した、継続的に実施するプログラム。 [小学校 1 件]

関心はありますが、モデル授業の実施は難しいです。 [小学校 1 件]

資料がほしい [小学校 1 件]

Act Locally の視点で [小学校 1 件]

他との調整 [中学校 1 件]

多人数（200人以上）の生徒を相手にできると有効性が感じられる。 [中学校 1 件]

工学的アプローチがあること [そのほか 1 件]



図 40 . 湿原を題材とする環境教育プログラムや教材の授業活用への関心（小学校 n=43）

表 19 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 授業での活用への関心度（小学校）

	実施校	実施意向あり	実施意向なし	実施不明
関心がある	4	8	9	1
関心がない	6	1	11	
そのほか	1	1	1	

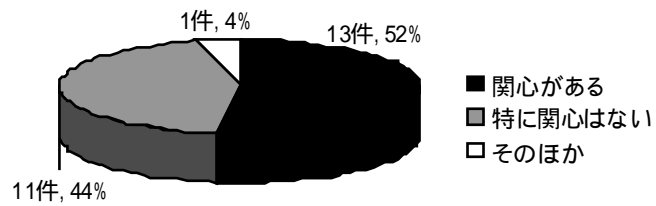


図 4 1 . 湿原を題材とする環境教育プログラムや教材の授業活用への関心 (中学校 n=25)

表 2 0 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 授業での活用への関心度 (中学校)

	実施校	実施意向あり	実施意向なし
興味がある	6	4	3
関心がない	2	1	8
そのほか			1

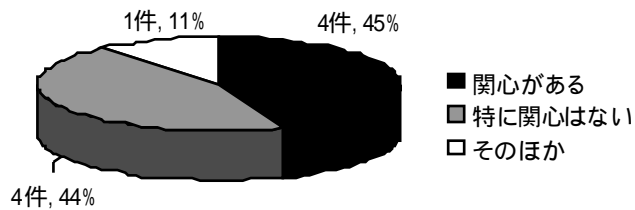


図 4 2 . 湿原を題材とする環境教育プログラムや教材の授業活用への関心 (高校・大学等 n=9)

表 2 1 . 湿原を題材とした教育活動の実施状況別 授業での活用への関心度 (高校・大学等)

	実施校	実施意向あり	実施意向なし
興味がある	3	1	0
関心がない	2	0	2
そのほか	1	0	0

4 - 4 湿原を題材とした環境教育の導入や推進について、ご意見があればお聞かせください。

回 答(様式自由)

問5へ

何か重要な今日的課題の取り組みにあたっては、子どもからスタートということは理解するが、それが何でも学校に向けられている。それぞれの役割をしっかりと果たした上に、連携すべきということをご理解いただきたい。

以前、霧中にいたが、保護者からは湿原教育に本評。湿原の動物をやっても意味ないと言われた！湿原が環境に及ぼす影響なども、もっと市民が感じられればと思います。

地域素材の釧路湿原を通して環境教育を進めることは効果的である。生徒の関心に応じて進める総合的な学習でグループ毎の選択学習が充実できればと思います。

関心がないという返答が多く、大変失礼であること申し訳なく思っております。本校においては設問に対しての回答にもあるとおり、湿原への関心があまり強くない様子にあります。なかなか身近には捉えられないということから、上記のような回答になってしまっておりますが、この先関わりができたり、また、必要性が高まった際には、全て変わってくることもあるものとしてとらえて下さると幸いです。

環境教育も含め、取り組んだ方が良くと思う内容が数多くあり、十分な時間がかけられない。小1～中3まで各学年で少なくともこの程度はと思われる内容を提示していただけると、取り組みやすいのではないかと思います。(全くの個人的見解です)

現在、総合的な学習の時間での活動計画に基づき実施しているため、全員による環境教育の導入は難しいが、生徒の興味関心に応じて前向きに導入していきたい。

今、弟子屈町では町を挙げて各関係機関や学校等が連携して環境教育に取り組んでいます。そのため、子どもたちは地域の環境に関心を持ち、大切に守っていこうという意識が高まっています。関係機関等が連携して取り組んでいくことの大切さをあらためて強く実感しているところです。

「釧路湿原自然再生全体構想」についても、多くの人たちが参加・協力できる機会があり、強い連携体制のもので進められていくことを願っています。構想の対象となっている弟子屈町において、本校のこれまでの教育活動を生かしたり、見直したりしながら湿原にも目を向けた広い視野での環境教育に取り組んでいきたいと思えます。

授業ですぐに活用できる教材があれば参考にしたい

本校における環境教育は、工学技術者教育につなげることを主眼としています。「工場など人間活動が環境に負荷を与える」などの、負の視点からのアプローチでは、強い内発性を生まないと考えます。むしろ、工業技術は環境というテーマに対してどんなことができるのか、という前向きなヒントが得られるような内容にしたいと考えています。

そのためには、学外に出向くことはもちろんですが、前向きに取り組んでいる方々のエネルギーに触れることが最も重要だと思います。その場では、地域の環境の有様を紹介するのみならず、環境改善の現実問題を提示していただければ幸いです。"

インターネット等での資料の提供があるとうれしい

総合学習にからめて行うのが望ましいが、副教材費の拡大や外部からの講師探しが大変である。ボランティアを含めて、人材活用を図るための窓口を一本化していただくと、有り難い。

大切なことだとは思いますが、他にも行うべき課題が多くあり、手を広げることができない。
身近に阿寒湖等、題材があるため、遠隔地である湿原についての学習に取り組む時間や移動手段
等、課題が多すぎるため導入は無理である。

各学年の目標を明確にし、何をどこまで考えるのかはっきりさせたい。生涯学習の観点からみると、小・中学生は、まずは湿原の理解という段階であると思う。安易に「保全」か「開発」を議論したり「ゴミひろい」のみの活動は意味がない。湿原を含む自然を十分、体感させたいが、学校の場所によっては難しい。「水」「安全」など視点をしばって追求するののも一つの方法であろう。ひとこと「湿原」といっても奥が深く、学びがいはあるが、カリキュラム化するのは簡単とは言えない。

釧路市に住む子どもなので、湿原に触れ、体験させるプログラムに興味はありますが、現実には教職員の数や人手など難しい問題があります。

本校では、五感を使った環境教育を重視しています。湿原は地域的には身近なのですが、繰り返し行くことが難しいところに苦労しています。

講義レポートの課題や卒論への取組としてこれまでも多くの学生が様々なプログラムに参加している。面白かった、また参加してみたいという意見もあるが、花や鳥の名前ばかりを列挙されても…。説教臭い、道路を歩くことが本当に自然の鑑賞の仕方として良いことなのか、と厳しい感想もあって考えさせられる。親達は概ね無関心

5 まとめ・考察

(1) 釧路湿原流域圏における学校での環境教育の実施状況

本調査により、小学校及び中学校における環境教育の取り組みは、各学校によって実施内容にばらつきは見られるものの、総合的な学習の時間を中心として各教科と関連させながら、ほとんどの学校において実施されていることがわかりました(図43)。また、高等学校、大学等においては、主に各教科や講義の中で環境教育を実施していることがわかります。

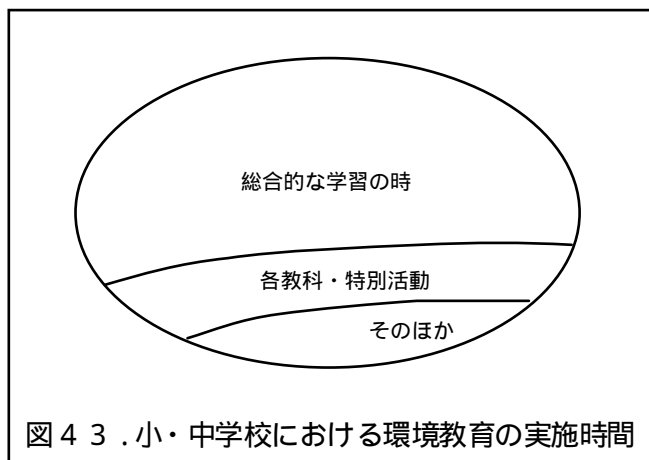


図43.小・中学校における環境教育の実施時間

「環境教育を実施している」と回答した学校の一部は釧路湿原を環境教育の題材として選択しており、その中には体験からの気づきの促進、課題発見、課題解決へ向けた実践といったステップを踏み、体系的な取り組みを行っている学校もわかりました。

環境教育で取り扱う題材としては、小・中学校においては、身近な環境を大きなテーマとし、生活圏の自然環境や社会環境を題材として環境教育に取り組む学校が多くの割合を占めていることが設問2-4への回答よりわかりました(図44)。高等学校や大学等においては、対象とする地域の範囲や専門性に差があるものの、同様に地域の環境を主な対象としていることがわかります。

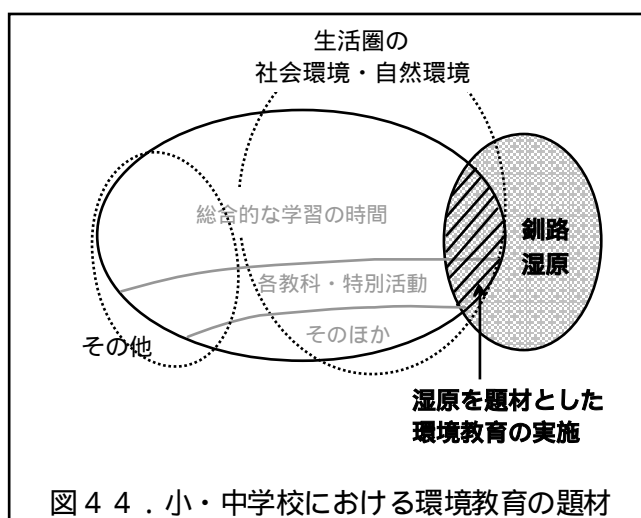


図44.小・中学校における環境教育の題材

(2) 環境教育の導入にあたっての制約要因

環境教育の視点から教育活動を実施するうえで、多くの学校が、校外における体験学習や調べ学習を前提として授業を実施しており、実施に際しては、「児童の移動」に係る時間・経費・安全性等が制約要因や課題として多く挙げられています(図45:制約要因1)。また、学習効果を高めるにあたって、児童の発達段階に適した題材の選択という視点から、児童にとって身近な環境である「生活圏」における社会環境や自然環境に適した題材として多くの学校が扱っていること、指導に係るノウハウ・情報や手間なども題材選択の要因の1つとなっていることが設問2-6、2-7よりわかりました。

このほか、環境教育や湿原を題材とした教育活動の実施においては、他教科との学習内容の調整や時間数の確保などが、実施に際しての制約要因や課題として多く挙げられています。(図45:制約要因2)

設問 3-5 より、「釧路湿原を題材とした教育活動を実施していない学校」においては、上記視点を踏まえて、他の適した題材を選択しており、「釧路湿原を題材として選択している学校」については、身近な自然環境として、若しくは社会環境も含めた視点から釧路湿原を環境教育に適した題材として選択している学校であるとともに、移動や時間数確保などの課題整理を行いながら実施している学校であると考えられます。

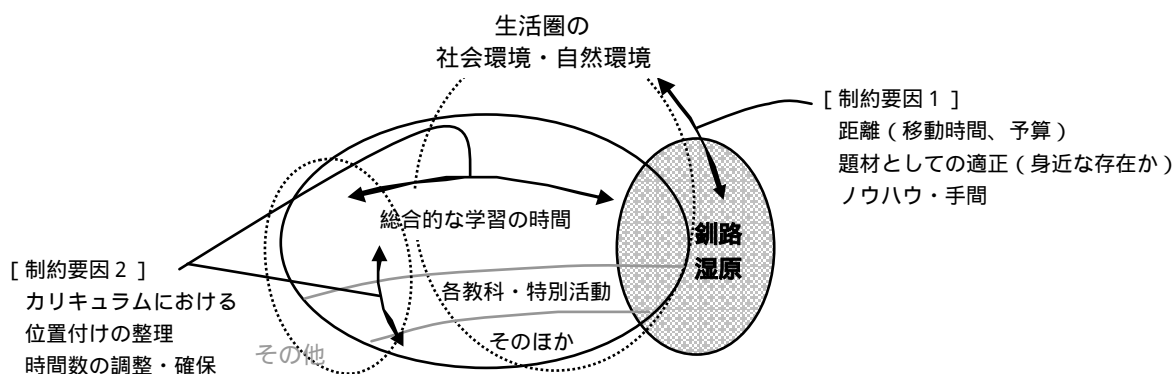


図 4 5 . 環境教育の実施に係る制約や課題

(3) 湿原を題材とした環境教育の推進方策の検討に向けて

湿原を題材とした教育活動や環境教育の実施に伴い、課題や制約要因の改善に向けて考えられる事項を以下に考察します。

学校のニーズに応じた支援の必要性

前提として、様々な制約の中で教育活動を実施している学校のニーズに合った支援方策を検討していく必要があります。例えば、総合的な学習の時間を含めて、各教科や特別活動などの中で既に学校が取り組んでいるカリキュラムに合わせて活用いただくことが可能な多用な授業例の情報を蓄積・発信していくとともに、学校とコミュニケーションを図りながらフォローアップや様々な団体や機関とのコーディネートを行っていくことで、導入段階におけるノウハウや手間の削減につながると考えられます。

現在のカリキュラム内での活用機会の増加に向けて

現在、各学校で取り組まれている題材の中で、釧路湿原に触れていただく機会をどのように増やしていくかを検討していく必要があります。例えば、まとめや発展などの段階で、釧路湿原の話題を一部取り上げて活用いただき、学習効果を高める授業の形を提案・実施支援していくことで、様々な題材を入り口とした多様なプログラムの中で、釧路湿原に触れていただく機会を広げていくことにつながると考えられます。このためには、身近な自然環境若しくは社会環境から釧路湿原につなげていく具体的なアプローチの例を提示していくことが必要です。

既に各学校が扱っているフィールドの活用を前提としたプログラムを波及させていくことが可能であれば、移動時間や予算の制約によらず、釧路湿原を地域の題材の一つとして活用いただくきっかけ

けづくりになると考えられます。

様々な団体等と連携した取組の促進

カリキュラムの中で釧路湿原を訪問するには、上記に加え、移動手段（経費）の課題を解決する必要があります。

学校が独自に予算を工面することが困難であれば、各種助成金等の活用や関係行政機関や団体、地域の企業や大学等からの支援や連携の可能性を検討していく必要があります。

環境教育の題材としての湿原の価値を高める

学習指導要領や環境教育指導資料等で示されている内容と照らし合わせ、素材としての釧路湿原を（環境）教育的な価値を持つ素材として高めていく必要があります。例えば、湿原での体験学習から生まれた児童の疑問や気づきを各教科で扱っていく、若しくは各教科で学習した内容を確認するという視点から湿原での体験学習を行う等、各教科との関連性や学習のプロセスを整理し、情報を発信していくことが必要です。現在のカリキュラムと競合する形で釧路湿原を題材とした学習をどのように活用いただくかを検討するのではなく、指導要領等で示されている教育を実施していくために適した題材の1つとして釧路湿原の教育的な価値を高めていくことで、図45で示した「制約要因2 カリキュラムにおける位置付けの整理、時間数の調整・確保」の課題解決につなげていくことが可能と考えられます。

6 資料編

釧路湿原自然再生協議会環境教育ワーキンググループ構成員（2007年11月現在）

調査用紙

湿原を題材とした教育の実施状況に関する調査結果（自由記入項目）

釧路湿原自然再生協議会環境教育ワーキンググループ構成員

<個人>

大森 享 (北海道教育大学釧路校 准教授)
金子 正美 (酪農学園大学 環境システム学部 教授)
神戸 忠勝
新庄 久志 (釧路国際ウェットランドセンター主幹)
高橋 忠一 (北海道教育大学釧路校 准教授)
鶴間 秀典
永瀬 知志
松本 文雄

<団体>

阿寒国際ツルセンター
釧路国際ウェットランドセンター
釧路自然保護協会
釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会
釧路湿原国立公園連絡協議会
釧路市民活動センターわっと
釧路シャケの会
NPO 法人 環境把握推進ネットワーク - PEG -
NPO 法人 釧路湿原やちの会

<教育行政関係機関>

北海道教育庁釧路教育局、釧路市教育委員会、釧路町教育委員会
標茶町教育委員会、鶴居村教育委員会

<関係行政機関>

環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所
国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部
林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター
北海道釧路支庁
釧路市

<ワーキンググループ事務局>

環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所
財団法人北海道環境財団

湿原を題材とした教育の実施状況に関する調査

調査主催 釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会 環境教育ワーキンググループ
事務局 環境省釧路自然環境事務所
調査請負機関 財団法人北海道環境財団

このたびはお忙しいところ調査にご協力いただき、お礼申し上げます。以下の各欄に必要な事項をご記入のうえ、同封の返信用封筒(切手不要)またはFAX(011-218-7812)により、9月25日(火)までに下記宛てにご返送ください。

調査目的: 釧路湿原自然再生協議会では、釧路湿原の保全・再生にあたり、湿原を題材とした環境教育を推進していきたいと考えています。この調査は、これにあたって学校における環境教育の実施状況や意向等に関する情報を収集し、今後の推進方策を検討するための資料とすることを目的として実施するものです。

対象: 釧路湿原集水域の5市町村(釧路町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、釧路市)の小学校、中学校、高等学校、大学を対象とします。

調査結果の取扱い: 調査結果は集計し、学校名が特定されない形で釧路湿原自然再生協議会に報告し、公表することを予定しています。ご回答いただきました学校には、報告書を送付させていただきます。

【アンケート回答にあたってのお願い】

- (1) 選択項目では、該当する番号の回答欄に をつけてください。
- (2) 選択項目のうち、「その他」など記載欄()もしくは、記入欄が用意されている項目を選んだ場合には、必要に応じて内容をご記入ください。
- (3) 自由記入欄では、設問への回答をご記入ください。記入スペースが不足する場合は、別途用紙をご用意いただき、アンケート表とともにお送りください。
- (3) 参考資料等をご提供いただける場合は、料金着払いにて下記宛てにお送りください。
- (4) 電子メールでのご回答を希望される場合は、yamamoto@heco-spc.or.jp まで、フォームをご請求ください。

(資料送付・お問い合わせ)

財団法人北海道環境財団 (担当: 山本、久保田)
 〒060-0004 札幌市中央区北4条西4丁目伊藤・加藤ビル4階
 電話 011-218-7811(月～金 10:00～18:30)、FAX 011-218-7812

1. 貴校について教えてください

1. 学校名	ふりがな
2. 全校生徒数	
3. 教職員数	

2. 環境教育の実施状況について

2 - 1 貴校では環境教育を実施していますか。1つ選んで をつけてください。		
回 答	選 択 肢	
	実施している	問2 - 2へ
	実施の意向があるが、現在のところ実施していない	問2 - 6へ
	実施の意向はない	
2 - 2 どのようなテーマで実施されていますか。当てはまるものを全て選んで をつけてください。		
回 答	選 択 肢	
	湿原を題材とする環境教育を実施	問2 - 3へ
	湿原以外を題材とする環境教育を実施	
2 - 3 どのような時間に実施していますか。当てはまるものを全て選んで をつけてください。		
回 答	選 択 肢	
	総合的な学習の時間に実施している	問2 - 4へ
	教科の中で実施している	
	課外活動で実施している	
	そのほか()	
2 - 4 対象学年、時間数等、可能な範囲で具体的な内容、成果、感想等をご記入ください。		
回 答(様式自由)	これらが記載されている文書等の同封に代えていただいてもかまいません。	
		問2 - 5へ

2 - 5 実施における課題等があれば、可能な範囲でご記入ください。	
回 答(様式自由)	
	問3 - 1へ

2 - 6 環境教育を実施されていない理由を差し支えない範囲でご記入ください。	
回 答(様式自由)	
	問2 - 7へ

2 - 7 環境教育を新しく導入していく場合、どのような支援や条件が必要になるでしょうか。考えられるものを全て選んで をつけてください。 、 を選んだ場合には、可能な範囲で具体的にご記入ください。	
回 答	選択肢
	指導資料等授業のプログラムやマニュアルの整備
	外部からの講師の派遣
	予算(予算規模、利用目的を可能な範囲でご記入ください)
	そのほか(具体的にご記入ください)
	問3 - 1へ

3 . 湿原を題材とした教育の実施状況について

以下の設問では、湿原でのマラソンや遠足等、環境教育以外の活動も含めて、また、実施単位としては学年、学級、グループ単位での実施も含めてご回答ください。

3 - 1 湿原を題材またはフィールドとした教育活動を実施していますか。1つ選んで をつけてください。	
回 答	選択肢
	実施している 該当する実施単位を全て選んで をつけてください。
	実施単位 学校 ・ 学年 ・ 学級 ・ グループ
	実施の意向があるが、現在のところ実施していない
	実施の意向はない
	問3 - 2へ
	問3 - 5へ

3 - 2 どのような時間に実施していますか、当てはまるものを全て選んで をつけてください。		
回 答	選 択 肢	問3 - 3へ
	総合的な学習の時間に実施している	
	教科の中で実施している	
	課外活動で実施している	
	そのほか()	

3 - 3 対象学年、時間数等、可能な範囲で具体的な内容、成果、感想等をご記入ください。	
回 答(様式自由)	これらが記載されている文書等の同封に代えていただいてもかまいません。
	問3 - 4へ

3 - 4 実施における課題等があれば、可能な範囲でご記入ください。	
回 答(様式自由)	
	問4 - 1へ

3 - 5 湿原を題材とした教育活動を実施されていない理由を、差し支えない範囲でご記入ください。	
回 答(様式自由)	
	問3 - 6へ

3 - 6 湿原を題材とした教育を新たに導入しようとする場合、どのような支援や条件が必要になるでしょうか。考えられるものを全て選んで をつけてください。 、 を選んだ場合には、可能な範囲で具体的にご記入ください。	
回 答	選択肢
	指導資料等授業のプログラムやマニュアルの整備
	外部からの講師の派遣
	予算(予算規模、利用目的を可能な範囲でご記入ください)
	そのほか(具体的にご記入ください)
	問4 - 1へ

4 . 湿原を題材とした環境教育への意向について

4 - 1 釧路湿原自然再生協議会では、湿原を活用した環境教育の推進方策を検討していくために、同協議会メンバーの有志から成る環境教育ワーキンググループ(座長:高橋忠一北海道教育大学釧路校准教授)を設置しています。このワーキンググループの活動に関心がありますか。以下から1つ選んで をつけてください。(釧路湿原自然再生協議会については、別添の同封資料をご参照ください。)	
回 答	選択肢
	関心がある。 仮に、メンバーとして参加をご検討いただく場合、参加にあたっての条件があれば以下にご記入ください。
	特に関心はない
	問4 - 2へ

4 - 2 湿原を題材とする環境教育のプログラムや教材に関心はありますか。以下から1つ選んで をつけてください。		
回 答	選 択 肢	
	関心がある。(プログラムや教材づくりへの協力も考えたい。) 仮に、ご協力いただける場合、条件があれば以下にご記入ください。	問4 - 3へ
	特に関心はない	

4 - 3 湿原を題材とする環境教育のプログラムや教材が作成された場合、授業での活用等に関心はありますか。以下から1つ選んで をつけてください。		
回 答	選 択 肢	
	関心がある(モデル授業の実施等も考えたい) 実施に当たっての条件等があれば以下にご記入ください。	問4 - 4へ
	特に関心はない	

4 - 4 湿原を題材とした環境教育の導入や推進について、ご意見があればお聞かせください。	
回 答(様式自由)	
	問5へ

5 . 本アンケートに関する照会先

回答者情報については、調査内容について別途照会させていただく場合に使用させていただきます。
 個人情報については、公開することはありません。

回答者氏名		回 答 者 役 職 等	
電 話 番 号		電 子 メール	

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

湿原を題材とした教育の実施状況に関する調査結果（自由記入の設問）

設問 2 - 4、2 - 5、2 - 6、3 - 3、3 - 4、3 - 5 について、記入内容の原文を以下に記載します。

学校名の記述を含むものや特定の学校を示す記載については、内容の一部に編集を行っています。

2 . 環境教育の実施状況について

2 - 4 対象学年、時間数等、可能な範囲で具体的な内容、成果、感想等をご記入ください。

「別添資料参照」等と記載のある学校については以下では記載を割愛しています。

小学校

4年生の総合的な学習の時間で実施。湿原に住む動植物について調べ学習をする。その活動の中で、おたまじゃくしを育て、かえるになるころ放している。また、博物館から講師を年3回来ていただき、お話ししていただいている。

ごみの分別、リサイクル学習 4年

1 4年 総合的な学習の時間（20時間）。「水の旅」

水をテーマに環境に関わる部分で、自分の興味・関心のある部分（水の汚染、水質の変化、水の循環など）を調べていく学習。

2 空き缶を全校児童で集めて、その益金で AED を購入しようと活動をしている。

・総合的な学習「みんなのピオトープ」で、学校のピオトープを活用し、湿原の花等の観察等を行っている。鳥の巣箱かけも実施。

・羊の飼育活動は児童と教師全員で実施

・リサイクル活動、学校版 ISO にも取り組んでいる。

・学校のピオトープは、住宅地にあって、唯一の釧路の自然が残る場所として地域の方も散歩におとずれている。自然（森、川）の中に入れ、楽しくゲームをしながら、いろいろなことに気づいていく、大切にしようとする態度を育てる。

春採湖学習

1,2年生 生活科

3,4年生 総合的な学習の時間

5,6年生 総合的な学習の時間、水辺教室

3~6年 23時間 自然体験活動を中心とした探求活動

自然探索、野鳥観察、資料館見学、化石掘り 等

本校は地域が自然豊かなため、身近な自然と触れ合うことを中心として活動している。この他に栽培活動も行っている。

第3~6学年 クリーン作戦 年間12時間

全学年 10時間程度。学年毎に「校外学習」のうちに環境学習を取り入れている。

・キナシベツ湿原の自然（2年）

・音別町再発見・・・自然環境のすばらしさに着目（5、6年）

・阿寒湖のマリモについての学習

・阿寒湖の自然を教材にしたネイチャーウォッチング

第5学年「環境をかんがえよう」25時間

学習内容

- ・「トト口のふるさと財団」を例に、身近な地域の環境を守るための取り組みについて調べる。
- ・地球の環境を守るための国際的な協力について調べる。
- ・環境を守るために、自分たちにできることを考え、話し合う。
- ・タンチョウの給餌 ・地域のごみ拾い ・畑作体験

総合学習の中で、4年生が釧路湿原をテーマにして、季節の移り変わりによって、様々に変容する植物や動物などの観察、ネイチャーセンター職員の説明などで、湿原の誕生から特徴まで調べ、年間3回公共バスを使い実地調査活動を行い、取り組み後も、自主的に家で家庭において湿原にふれあう機会がふえてきている。

新釧路川をテーマ（総合的な学習の時間）

3年 50時間「 のステキをみつけよう」のテーマの中で、

- ・地域の探検を通して、 のステキを発見する。
- ・地域にもっとステキが広がるようクリーン活動やリサイクル活動を行う。

6年 30時間「未来をみつめて」のテーマの中で、

- ・地球の環境問題について調べる。
- ・自分たちにできる環境保護について考え、活動する。生活排水実験、ごみ分別作業など
- ・ 環境守り隊：児童会活動（全校での取り組み）
節電・節水の取組、ごみ分別、清掃の徹底：事務局、環境委が呼びかけ。日常的に取り組む。
定期的に結果を公表

- ・3学年 総合的な学習の時間「わくわく たんけんたい」

学校周辺の樹木について調べる 営林署の方による「森林教室」(4回実施)

活動を通して身近な樹木にふれるとともに、樹木の大切さやその環境を守ろうとする気持ちを持つ

- ・社会科・理科等での学習内容

全学年、各学年 10時間位 ・海岸清掃 ・校舎外清掃 ・通学路清掃 ・花壇活動

- ・全学年で ISO に取り組んでいる。
- ・4,5,6年の総合的な時間を使って、ゴミをはじめとして環境教育を行っている。
- ・3年生以上の社会科等で釧路市の取り組みを通して、環境教育を行っている。

(例1) 湿原を題材とした活動ではありませんが、地域清掃活動の一環として実施している「ピカリン大作戦」という活動があります。

- ・対象学年・・・全学年(25名) ・時間数・・・年2回(春・秋) ・時数扱い・・・勤労生産・奉仕的行事
- ・地域、PTAの協力・・・23名

《成果等》

・本校で20年以上続いている伝統的な活動で、H18年度はその長年の功績が認められ、全国漁港漁場協会愛護団体表彰を受賞しました。同じくH18年度「我が村は美しく北海道」運動第3回コンクールの景観部門にて特別賞も受賞しました。

・H19年度は、児童数が減少してきている中、子供会組織を中心に4つの地域に分かれてピカリン大作戦を実施。総重量250kgのゴミを回収。自分たちの住む村をきれいにするという意識が地域の環境保全にもつながり、子ども達の自然に関する興味・関心も高まってきています。

全学年対象による「森林教室」(釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター)指導官による

発達段階に応じた内容で毎年実施している。森林の役割、種類、見分け方等

- ・小1・2年生 生活課 - 野外観察、自然探索、野菜や花の栽培

- ・小4年 理科 - 生き物の一年
社会 - 水はどこからくるの、ゴミの処理について
図工 - 久著呂の自然を描く
- ・小6年 理科 - 生き物のくらしと環境
理科 - 地球と生き物のくらし
図工 - 久著呂の自然を描く
- 総合 - 地域の自然発見
花、野菜の栽培

3年生 45時間

鶴居ビジターセンターにてレンジャーの案内で ザリガニ釣り体験 湿原の花 貝の化石探し 虫や鳥 などについて散策しながら教えていただいた。その後、各自のテーマに基づいてビジターセンターのレンジャーに質問をしながら課題をまとめた。子ども達は「やちまなこ」に興味を示し、湿原についてさらに追求活動を行った。また、まとめたものを保護者や地域住民に向けて発表会を行った。

本校の環境教育は主に総合的な学習の時間において実施している。4年1サイクル(鶴居自慢 鶴居の自然 鶴居の未来 鶴居の人)で行うため、年度によっては湿原と深い関わりがある。

3,4年 25時間「進め！湿原調査隊」

- ・春、秋の2回、湿原に行き、指導員の説明を聞きながら、湿原内を探索する。
- ・湿原見学を通して、釧路湿原についての思いを個々にまとめ発表する。

通常の授業とはちがう環境での学習を通して、見て、聞いて、触れる等、有意義な学習をすることができる。

植樹活動・・・5,6年生(3時間)毎年、校庭に桜の苗木を植える。

苗木づくり活動・・・5,6年生(3時間)鹿の害で減少傾向にあるノリウツギ、ナナカマド、ミズナラなどを種から校庭で育て、苗木になったら園地に植樹する予定。

石鹸づくり・・・6年生(2時間)環境に優しい石鹸ということで、総合の時間に廃油を原料にした石鹸を作っている。

校舎外清掃・・・全校児童(毎月1回20分間 年間10回)校庭や通学路のゴミ拾いを中心とした清掃活動を行っている。

クリーン作戦・・・5,6年生(5時間)総合の時間に「ふるさと川湯」を美しい町にしようということで、地域のホテルや公共施設にポスターを貼らせていただいたり、手づくりゴミ箱を置かせていただいたり、観光客や地域の人に自分たちで企画したゴミ拾い散策への参加を呼びかけたりしている。

円形花壇づくり・・・全校児童(年間を通して随時)観光バスが校門前を通ると真っ先に見える校庭の大きな円形花壇を6月に花でいっぱいにし、10月まで全校児童で世話活動を続け、環境美化に力を入れている。

摩周・屈斜路クリーンタッチ・・・全校児童(年1回3時間)幼稚園児から高校生まで全町あげて取り組んでいるゴミ拾いを中心とした清掃活動。高校生がリーダーとなり、地域ごとに中学生、小学生、幼稚園児、保育園児と縦割り班をつくり活動している。

摩周湖クリーンウォーク・・・全学年希望者(年1回3時間)町役場が中心になり、地域住民が参加する、ゴミ拾い活動。学校はPTAが窓口となり、子ども、保護者、教職員が参加。

- ・対象学年～全学年 ・時間数～6時間(事前1、事中4、事後1)
- ・内容～町内の幼・保・小・中・高の子どもが参加。

小・中・高については、地区ごとにグループを編成し、高校生リーダーを中心に協力して、清掃活動を展開する。

昨年度、第1回目を実施し、活動後の反省では、小・中・高の児童・生徒と一緒に活動する楽しさを実感した感想が多く出された。

1.『地域をきれいにしよう!』(総合的な学習の時間、全校児童)

花づくりと清掃活動に取り組んでいる。

<花づくり>では、子どもたちが種から大切に育ててきた花を50個のプランターに移植し、地域の道路や公園、日頃お世話になっている郵便局や駅などに設置している。

<清掃活動>では、校舎周辺や通学路、駅などの清掃活動を行っている。

2.クリーン・タッチ(総合的な学習の時間、町内全ての幼小中高生全員)

町内全ての幼稚園・保育園・小学校・中学校・高校が連携してごみ拾い活動を行っている。実施後の感想では、地域の子も達と一緒に環境について考えるよい機会になった。スクールバスの中や町で会った時に挨拶を交わすようになったなど、一斉に環境を守る活動を通して、同じ町に住む者同士の実感を深め、地域の環境保全に対する意識の高揚や郷土を愛する心を一層培うことにつながっている。

3.学校版環境ISO(児童会活動、全校児童)

児童会を中心に構内における省エネ、省資源、リサイクル等に取り組み、毎月点検・記録化・見直しを図り、子ども達の環境保全に対する意識の高揚に努めている。

4.郷土学習(総合的な学習の時間、5・6年生)

川湯自然研究会で行っている自然調査に本校の5・6年生が参加し、美留和川の湧水部から中流部にかけての植生や河川等の様子などを観察したり、水質比較を行ったりした。この活動を通して、きれいな美留和の水が動物の命を守っていることを実感し、この環境を大切に守っていこうという気持ちをもつことができた。

5.カヌー体験(行事、全校児童)

地域の方々の協力を得て、屈斜路湖畔より釧路川流出付近をカヌーで下り、水辺周辺の植物や生き物を観察したり、川遊び体験を行ったりしている。この活動を通して、自分たちの住んでいる地域の自然の豊かさを実感し、大切にしようとする気持ちにつながっている。

・ふるさと体験学習

カヌー体験、藻琴山登山

・クリーン・タッチ

町内の園児、児童、生徒がお互いに協力し合い環境保全活動(ごみ拾い)に取り組む(別添)

・地域ごみ拾い

地域住民と一緒に地域環境保全活動(ごみ拾い)に取り組む

対象学年:高学年を対象(総合的な学習で)時間:20時間

内容:

川湯エコミュージアムの活用

摩周湖、屈斜路湖の成り立ちや環境(特に摩周湖の透明度等の調査等についても)の変化等についての説明

摩周湖周辺の動植物についての個人調査(調べ学習)

(植物、魚、鳥、昆虫などについて)(総合)

成果:図鑑づくりなどでまとめた。

感想:地域に存在する人材をもっと活用していきたい。

・全学年にて

・様々な形で環境教育にふれる結果になっているので、時間数は確定しきれない状況である。

中学校

1 年生が「地域を知る」というテーマの中で、自ら課題を設定し、調査活動等を実施している。その課題の中で、釧路湿原についての調査活動を設定している生徒もいる。また、隣接している春採湖についても同様である。

全学年 内容：リングブルの回収、緑の羽根募金、緑の羽根募金還元金による植樹

成果：環境に気を使うようになった。

総合学習 1 年生のテーマが環境となっています。自然環境、ごみ問題などを扱っています。

1 年生 6 時間 地域の自然環境調べ

1 学年 森林学習（環境教育の方を講師に迎えて） 2 学年 釧路に生息する動物の壁画作成

3 学年 地域清掃ボランティア

1 年 40 時間 「阿寒町の自然」 地形、気候、動物、植物など

・「地域・湖岸清掃」全学年 3 時間

自分の住んでいる地域と阿寒湖岸の清掃を通し、環境美化の意識の高揚を図るとともに、地域の一員としての自覚を高めている。

・「植樹祭」1 学年 2 時間

植樹を通し、自然環境保全に努め、動植物愛護の心を育てる。また、自然に親しみ美しさやすばらしさを体感する。

・「マリモ観察会」3 学年 2 時間

湖底に生息する姿を直に観察することにより、ふるさと愛や畏敬の念を育てるとともに、特別天然記念物を貴重な財産とし、みんなで保護しようとする心を育てる。

2 学年、選択教科（MTP コース）

・ MTP 事業を実施するにあたり、今年度開設した。

・ アメリカ、フロリダ州の中学校との湿原を共通点とした交流の実施を予定している。

・ 1 学年 ・ 釧路湿原の概要、現地での課題別学習 ・ 講師を招いての講演

・ 身近な湿原についての関心が高まった

全学年（1 年生は総合的な学習の時間、他学年は教科の担当時間で）

第 3 学年 10 時間程度

地球環境問題（温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、砂漠化、熱帯雨林の減少、野生生物の絶滅）

成果 いろいろな環境問題を身近で緊急な問題として捉え、考えるようになった。

1 年生で実施「地域の環境を見つめよう」

・ 高山ゴミ処理場、釧路市資源リサイクルセンター等の見学 ・ 校下の河川清掃等を実施

1 学年 35 時間程度

選択課題で子ども達が標茶の自然等について調査研究している。それぞれのグループが取り組んでいる。

・ 併置校なので、小 1～中 3 の全学年を対象に実施している。

・ 本校は学校林があり、春夏秋の年 3 回各 3 時間、学校林で活動している。

・ 内容は、冬囲い（秋）撤去（春）巣箱清掃（秋）などの体験、観察などを全校や学級ごとに行っている。

・ 環境教育という面では、比較的時間のとれる夏に、釧路湿原森林環境保全ふれあいセンターの協力を得て、森林の役割等について学習した。

・ 昨年から、ふれあいセンターの協力を得ているが、外部講師ということで、子ども達の視野が広がったと思う。

・ 植樹活動への参加

・ 「クリーン作戦」年に 2 回程度、全校生徒と教職員で地域のゴミ拾いを行っている。

・ 生徒会が中心となって、プルタブ回収等を行っている。

- ・総合的な学習の時間の調べ学習で環境問題をテーマに学習している生徒や、鶴居のことを調べる上で、湿原を題材としている生徒がいる。
- ・地域清掃の実施（全学年）
- ・タンチョウ生息調査への協力の事前指導の一環で実施（全学年）
- ・村の植樹祭への参加（3学年）
- ・各教科の中で適宜
- ・第1学年 総合的な学習の時間（70時間）
「弟子屈町の自然」摩周湖を中心に調べ学習
- ・第2学年 環境学習（2時間）
理科授業として環境科学研究センター所員による大気と摩周湖の学習を毎年実施
- ・全学年 教科指導（理科）の中で地域素材の活用を図り、生物分野の学習を行っている。
- ・そのほか 開発局治水課で行う水生生物調査を弟子屈町河川で実施。毎年希望者が参加。
生徒会の取り組みとして ISO 活動を行っている。
- ・1年 総合的な学習の時間 ・屈斜路湖の水質調査 ・植物の分布、植生調べ
- ・釧路川源流部 ボートによる川くだり

高等学校

1学年の総合学習で湿原探索を1日（6h）で行っている。

1学年に実施

目的 道東の豊かな自然への理解を深め、人間と自然の関わりを考えることで、今後自然と共存して生きる素地をつくる。

事前指導 地理 A の授業の中で4時間

地域巡検 午前 温根内ビジターセンターで木道の自然観察 午後 北斗遺跡、資料館の観察

事後指導 地理 A の授業の中で8時間。レポートの提出

2学年に実施

事前指導 社会の授業の中で4時間

地域巡検 阿寒湖の実施、ボッケ探勝路観察、グループ別学習

1) マリモの謎を探る 2) 阿寒湖の観光 3) 自然に親しむ 4) 白湯山を学ぶ

事後指導 社会の授業の中で8時間。レポートの提出

3年生 選択授業で3時間程度

(財)日本野鳥の会出版「タンチョウティーチャーズガイド」を用いて、「タンチョウの保護 = 湿原を守ること」を学ぶ。

大学・高等専門学校等

環境問題現地研究（2学年）、サステナビリティ学（3学年）

地域の NPO 法人「トラストサルン釧路」の春及び秋の植林活動にゼミ単位、有志（+ 掲示を見て直接参加する学生）で 1997 年度より毎年参加している。

また、『環境地理学演習』（ ）では卒論作成に向けて生態系保全・野生生物・都市環境班等を編成し、聞き取り調査・施設見学（ゴミ焼却施設やビジターセンターなど）を実施している。

また道外や海外から道東湿原群での調査・視察・会合参加のために来釧する学生や研究者、政府関係者との交流・意見交換も実施している。

2 - 5 実施における課題等があれば、可能な範囲でご記入ください。

小学校

湿原までの交通費がなく、全児童（114名）が行けないでいる。

小学生が追求学習を行うのに適した学習材（本、インターネットなどの情報）が多く必要。

予算、施設整備の面で苦慮している。

バス等での移動が必要。経費がかかる。

少人数校なので、一人一人への支援がしやすいが、学年発達段階に応じた目標の設定、課題の選択に留意が必要
体験活動にかかる時間が限られる

時間と予算が足りない

現地での交通手段は公共バスを使うが、自費となるので負担がかかる。

環境保全に関するせっきくの取組ですが、毎回、村外からの不法投棄によるゴミが大量にあり、子ども達の手には負えないのが現状です。一部の心ない大人の規範意識の低下のために、子ども達の意識も停滞気味になっています。

時間数の確保が大変です

活動内容が天候に左右される。

学校からビジターセンターまでの移動手段が限られるので、回数も制限される。

役場のバスを利用させていただいているので、学校の都合で自由に釧路湿原に行くことができない。

・専門的な指導が可能な外部講師の依頼が難しい。

・どの活動をするにも、少ない予算で行っているため、年々活動が先細りの傾向にある。

・町内全校での連絡調整の難しさ ・回を重ねて実施する際の内容の工夫～マンネリ化の防止

地域の人材を積極的に活用していくこと

中学校

生徒人数が多いため、身近な場所でしかできない。

体験的学習活動の導入が大変である。

フィールドワークの段取りが難しい。

身近なところであれば、もっと調査ができる（バス等を使わなくても）

調査活動の時間、経費、指導者の確保

科学的根拠を実証する施設、設備の充実

移動はバスを使用するため、多くの取組が困難

移動手段の確保

環境教育と構えた形では行っていないが、単発にならないように、九年間の見通しを持って、継続的に取り組むことが課題である。

・予算がない ・植樹活動の前に、事前の活動として、外部講師を招いて意識付けを行っているが、適当な外部講師がなかなか見つからない

現地での体験活動を設定しづらい

高等学校

その成果を調べるのが難しい

自然について考えさせるきっかけとはなっているが、さらに深く考えさせ、行動させるプログラムはできていない。

悪天候の時には、成果を出せず終わってしまうことがある。

大学・高等専門学校等

学生が卒論作成のために道内や道外でエコツアー等に参加する場合の安全対策・指導（経済学部であり基本的にフィールド体験はほとんど初めてというケースが多い）

新たに環境教育を授業として導入するにあたっては、何らかの古い科目を諦めなければ時間割上過密になる。また、専門教員が不足しているので、外部講師に依存することになる。

講義だけでは生きた環境教育にならないので、校外施設への見学などが必須と考えるが、その交通費や、まとまった時間の確保が課題である。

また、単に見学しても問題意識が希薄になるので、事前もしくは見学中に専門家のお話を聞けることが重要と考えるが、そのすりあわせが課題。

2 - 6 環境教育を実施されていない理由を差し支えない範囲でご記入ください。

小学校

各教科や特別活動等、学校教育活動全体の中で環境に関する学習や活動は、どこの学校でもやっています。(本校も)ただ、総合的な学習の時間などで、とりたてて多くの時間を使っての学習は実施していないということです。本校は、地域学習を中心にやっていますので。

教科や総合の中で多かれ少なかれ関連を持たせて指導しているが、それらの競合や重複を十分整理し全体計画を立案するまでには至っていないため、「実施していない」と回答しています。

福祉教育など他の課題に取り組んでいるため

教育課程全体の中で地域を題材とした学習や体験活動、リサイクル運動等に取り組んでおり、学級課題を解決する上で「いわゆる」環境教育をメインとしなくてもよいと考えているから。

各教科等の計画及び実施が充実し、その目標を達成する取組が十分になされているため、環境教育の目標も十分にクリアしていると考えます。

プログラムされている年間の指導計画に基づいて授業が進められており、現在のところ環境教育については計画の中に位置づけられておらず、また、その必要性を求める声はまだ高まってはいないため。環境教育という前提としてではないが、総合的な学習の時間の中では、テーマを自然環境に向けた内容で各学年で取り組まれているものがあるので、現在のところはそこまでである。

各学年ごとに教科の学習内容に合わせて指導しているのが現状である。今後それらを体系的に整理するとともに、他の領域との関連を図りながら環境教育の全体計画を作成し推進していく予定である。

日常の教育活動の中で環境に関する問題等について子ども達に考えさせたり指導したりすることが多いから。

中学校

教育活動全体の中では、環境教育を実施しているが、総合学習の時間などで重点をおき、ある程度時間をかけて取り組むことはしていません。地域学習などに重点をおいて学習しているため。

教育課程の編成にかかわって、本校の実態においてはまだ困難さがある。

教育課程全体の中で地域を題材とした学習や体験活動、リサイクル運動等に取り組んでおり、学級課題を解決する上で「いわゆる」環境教育をメインとしなくてもよいと考えているから。

・移動手段の弊害 ・大幅なカリキュラム編成の見直しが必要

現在、総合等で農業体験学習を中心に行っております。また過去に取り組んだ経過もある様ですが地域酪農の実情と反する部分があり少々もめた様です。他の体験学習との兼ね合い。

必要性を感じるが、時間的に無理がある。

高等学校

教育課程及びカリキュラムに盛り込むことが難しいため(普通科高校ということ)

教員の研修不足

・全教職員の共通理解がまず必要 ・予算 ・湿原に関しては交通手段等の問題

大学・高等専門学校等

カリキュラム上、時間の余裕がない

3 . 湿原を題材とした教育の実施状況について

以下の設問では、湿原でのマラソンや遠足等、環境教育以外の活動も含めて、また、実施単位としては学年、学級、グループ単位での実施も含めてご回答ください。

3 - 3 対象学年、時間数等、可能な範囲で具体的な内容、成果、感想等をご記入ください。

「2 - 4 同様」、「別添資料参照」等と記載のある学校については以下では記載を割愛しています。

小学校

4年 社会：校外学習 理科：湿原探索

第5学年 釧路のまちをしらべよう 25時間 湿原をテーマに選ぶときと、選ばないときがある。

3,4学年において、「湿原探索と発見」ということで、総合学科を活用し、年間総時間数の3分の2をあてている。

また、5年生においては「釧路のここがすばらしい」というテーマで、釧路のよさをアピールする活動の中で、「釧路湿原」を取り上げ、現地調査し発表まで行ったグループもあった。時数は、前期、後期と分かれているが、昨年度は34時間、湿原学習にあてている（計画、探索、整理、まとめ、発表）

花咲じいさんプロジェクト（4・5・6年生）釧路開発建設部事業への協力

全校対象。午後半日。釧路湿原、温根内ビジターセンターの職員に案内してもらい、釧路湿原の動植物を観察学習する。身近な動植物に関心を持つ子どもが増えている。

タンチョウ一斉調査への協力（3,4年、5,6年、各1時間）タンチョウへの給餌活動（全校、冬季間）
身近な環境に対する理解が深まった。

対象学年：全学年を対象「春をさがそう」行事の中で

時間数：1日日程6時間

教育大釧路校生物学研究室 OB、NPO法人「環境把握推進ネットワーク」メンバーの人材活用

内容：

釧路町の細岡展望台にての出前授業

湿原を散策しながら、動植物の生態、名前を当てるクイズをはじめ、ネイチャーゲームなどを通じて、湿原の動植物などについて知識を深めた。

成果：湿原に対する理解を深めることができた。

感想：専門家でもあり、小学生への扱いも大変すばらしく、内容がある程度プログラム化されており、楽しく学習することができた。多くの学校が活用してもらいたいと感じた。

中学校

遠足 湿原を通過の遠足。湿原マラソンへの参加 部活動

・第1学年 23時間・自分と地域環境（郷土）との関わりについて考える中で、地域環境に関心を持ち、課題解決的な学習を進めている。

陸上部 湿原マラソン大会参加

・1年生での遠足 ・フィールドワーク（木道散策、オリエンテーリング）

全学年 6時間 湿原強歩遠足（28km）

成果 28kmを完歩することにより、充実感と達成感を味わわせ、不撓不屈の精神を養うことができた。自然とふれあい、自然愛護の精神を養うことができた。

1学年 2時間（学級単位での実施）身の回りの生物の観察 地形と地図

成果 湿原周辺の動植物の生態を観察し、まとめることができた。地図記号と地形についての理解を深めることができた。

高等学校

毎年、本校では「釧路湿原強歩大会」を実施しており、今年で 26 回目となります。男子 40km（昔は 50km）、女子 35km（昔は 40km）を完歩するという本校の伝統行事となっています。

毎年、体育の授業の中で、湿原強歩と称して、男子 28km、女子は 20km の競歩を実施している。対象学年は全学年、生徒は毎年大変だがゴール後はそれなりの成果がある。今年度は道路工事等の関係で中止した。

大学・高等専門学校等

2 - 4 における植林以外では、年 1 回程度実施の釧路湿原視察ツアー、時には霧多布湿原も訪問する。釧路出身者でも実際に木道を歩いた経験のない学生も多く、新たな視点を提供できる。また、最近は実施していないが、ホーストレッキングやカヌー体験もグループで実施した経緯がある。

3 - 4 実施における課題等があれば、可能な範囲でご記入ください。

小学校

現地学習のとき、湿原まで遠いので、時間と費用がかかる。

交通手段と費用

中学校

・湿原までの距離が長い ・生徒が多いため、輸送、受入がムリと言われる。

資料の収集

活動時間、経費、指導者の確保

それぞれの課題が違うので、フィールド学習等の日程の調整

高等学校

クルマの交通量が増加したため、交通整理や生徒の交通安全を確保するため、人員が数多く必要。釧路湿原道路を横断するので、危険が伴う。

・生徒の健康状態 ・一般道路との交差するところの安全性

3 - 5 湿原を題材とした教育活動を実施されていない理由を、差し支えない範囲でご記入ください。

小学校

- ・他の内容での教育活動がすでに計画されており、その他に時数を確保できない。
- ・くり返し学ぶ素材として身近にない。

経費がない

- ・距離的に遠い
- ・近くに良い題材がある
- ・限られた時数では身近なところでないと使えない

湿原より身近な素材が豊富なため。

例えば、本校の遠足では徒歩となっており、距離的に無理となっている。

子ども達の生活圏の環境教育に取り組んでいるため

本校は地域力をいかした農園活動や動物園学習などを中心に活動しているため。また、湿原を題材とした場合、近隣とは言え、交通費の問題、時間の確保など、いろいろ配慮すべき点もあると考える。

湿原までの移動手段に費用がかかる。

身近でない(地域的に)

本校の近くを新釧路川が流れているため総合的な学習の時間で学習している。今後、釧路湿原を取り扱うことも検討していきたい。

題材として取り入れるための資料や情報を十分に入手できていないため。

総合的な学習の時間では、環境をテーマに学習活動を行っているが、より身近な地域という視点、環境問題という視点で行っている。3年生の社会科において、釧路湿原について学習している。

構想としては湿原を活用することも考えられるが、頻繁に足を運ぶことのできない湿原よりも身近なもの、こと、場所を題材とした活動が実態に合っている。

校区から湿原が遠いから。

時間に余裕がない

他の取組(現場の実態に応じた教育課題に取り組んでいるため)

学校課題を解決ため、他の教育活動を優先的に扱っているため

湿原の範囲、定義等が明確でないので返答しづらいが、いわゆる「釧路湿原」をゲレンデとした活動は距離的な問題(交通手段等)や子ども達の生活との関わりで実施できない現状がある。現在実施している「環境に関する学習」では地域の川を題材とした学習を中心に展開しているが、釧路川へ流入する川であるので、その意味では実施していることになるのかもしれない。

沿岸地域のため、前浜を題材にした活動が中心となっています。

距離的に遠い(実体験させるためには)

特に必要性を感じていないから

学校林や学校農園を地域素材を生かした活動として捉えているので、湿原を題材とした教育活動は検討していない。本校は湿原と呼ばれる地とは若干距離があり、また、そのために子ども達や地域的にも湿原への関心がそれほど高いとは言えない現状であるなどの理由による。

現在のところ考えていない。

移動手段の確保

釧路湿原は、学校から遠く、往復に要する時間が長過ぎて、活動可能な範囲内でないことが挙げられる。さらにまた、本校は川湯三山やツツジヶ原散策路、屈斜路湖散策路等々豊かな自然に囲まれており、環境教育を推進する上で大変恵まれた環境にあります。まず、子どもにとって身近である地域の素材を生かすことが大切であると考え。

- 1) 距離的な問題があり、活動を計画する際に支障がある。(移動手段、移動時間、教材として身近でない)

2) 地域素材としての環境があるため、「湿原」を題材とする必要性が低いと考えられる。湿原の上流域に当たりますが、地域の自然環境の学習を通して関連づけた意識の掘り起こしはできると考える。

子ども達が観察したり、調査したり、湿原と直接関わるには距離的、時間的な課題があり、今後検討していきたいと考えている。

本町では、環境教育に力を入れており、環境に重点をおいた教育活動(社会教育、学校教育)が充実しているため。地域に題材となる環境が整っているため

中学校

生徒のテーマ選択に湿原に関するものがなかった。

学校から湿原までの距離があるため

特に理由はないが、湿原を中心に扱う必然性がないこと。もっと身近な環境に目を向ける場所があるから。

本校の特色ある教育として地域学習を中心に進めているため。

湿原から距離的に遠く、身近とはいえない。

授業時数、指導者、予算、学校規模

学校課題を解決ため、他の教育活動を優先的に扱っているため

重要だとは考えるが、本校の実態から考えると出かけての学習は困難であるため

湿原の減少や乾燥化などは、話題とはなるが、それを題材として教育活動を展開しようという方向で論議されておらず、取り組むまでは行っていない。

授業時間数等の調整ができないため

- ・全生徒一斉の湿原を題材とした教育活動は行っていないが、生徒個々の興味、関心に応じて実施している。
- ・湿原マラソン等は実施していないが、地域の自然に触れる強歩遠足(20km)を実施している。
- 「総合的な学習」で実施したこともあるが、今年度は湿原を題材としていないので実施していない。
- ・学校周辺に教育活動の素材が十分ある。 ・弟子屈町は摩周湖等の調査対象が多く存在している。
- ・授業時数の確保が難しい。

釧路湿原は遠方であり、身近なものではないため。

高等学校

授業数確保のため、行事が減少したため。

教員の研修不足

大学・高等専門学校等

カリキュラム上、時間の余裕がない